第一弁明

ユスティノス
藤遥　制作

1〜5章　宛名、名前だけで罰することの不当さ、悪霊のしわざ

1:1 皇帝ティトゥス・アエリウス・ハドリアヌス・アントニヌス・敬虔帝・カイザル・アウグストゥスへ。その子、哲学者ウェリッシムスへ。哲学者であるカイザル[1]の実の子で、敬虔帝の養子となった、学問を愛するルキウスへ。聖なる元老院と、ローマの全国民へ。わたしユスティノスは、バッケイオスの子プリスコスの子で、シリヤ・パレスチナのフラウィア・ネアポリスの出です。あらゆる民族の中から出て、不義に憎まれ、虐げられている人々がいます。わたしもその一人として、その人々のために、この呼びかけと嘆願を差し出します。

2:1 まことに敬虔な人、まことの哲学者は、ただ真理だけを重んじ、慕うべきです。理性がそう命じています。昔の人々の考えでも、それが悪いものなら、従うことを拒むべきです。実際、健全な理性が命じるのは、不義なことを行ったり教えたりした人々に従わないことだけではありません。真理を愛する者は、たとえ死に脅かされても、あらゆる仕方で、正しいことを語り、行うことを選ばなければなりません。自分のいのちよりも、それを先にするのです。2:2 さて、あなたがたは、敬虔な人、哲学者、正義の守り手、学問を愛する人と呼ばれています。そのことを、至る所で耳にしています。しかし、ほんとうにそうであるかどうかは、これから明らかになります。実際、わたしたちがこの書面を携えて来たのは、あなたがたにへつらうためでも、気に入られるように語るためでもありません。厳密で、よく取り調べる理性に従って、裁きを行うよう求めるためです。先入観や、迷信深い人々に気に入られたいという思いにとらわれてはなりません。理に合わない衝動や、長く根を張った悪い評判に引かれて、自分自身を罪に定める判決を下してはなりません。2:3 実際、わたしたちはこう考えています。もし悪徳を行う者だと証明されたり、悪い者だと見きわめられたりしないなら、だれからも、何の害も受けることはありえない、と。あなたがたは、殺すことはできても、害することはできないのです。

3:1 しかし、これが理に合わない、向こう見ずな言葉だと思われないように、わたしたちは求めます。その人々に向けられている訴えを取り調べてください。そして、もし訴えのとおりだと証明されるなら、罪の明らかになった者を罰するのにふさわしく、罰してください。しかし、もしだれも何一つ証明できないなら、悪い評判のために罪のない人々に不義を行うことを、真の理性は命じません。いや、それはむしろ、あなたがた自身に不義を行うことです。あなたがたは、裁きによらず、激情によって罰を科そうとしているからです。3:2 健全な考えを持つ人ならだれでも、次の申し出こそ良く、ただ一つ正しいものだと言うでしょう。治められる者は、自分の生活と言葉について、とがめられるところのない申し開きをすること。同じように、治める者も、力や暴政ではなく、敬虔と哲学に従って判決を下すこと。実際、そうすれば、治める者も治められる者も、良いものにあずかれるでしょう。3:3 実際、昔のある人も、どこかでこう言いました。『もし治める者も治められる者も哲学をしないなら、国々が幸いになることはありえないだろう』。ですから、わたしたちの務めは、わたしたちの生活と教えを、すべての人が調べられるようにすることです。わたしたちのことを知らないままでいる人々がいます。その人々が目が見えずに犯す過ちの刑罰を、わたしたち自身が負うことにならないためです。一方、あなたがたの務めは、理性の求めるとおり、よく聞いたうえで、良い裁き手となることです。3:4 実際、学んだあとで、もし正しいことを行わないなら、あなたがたはもう神の前で弁明することができないでしょう。

4:1 さて、名前の呼び名だけでは、その名前のもとにある行いを抜きにして、良いとも悪いとも判断されません。実際、訴えられているわたしたちの名前から言えば、わたしたちはこの上なく善良な者なのです。4:2 しかし、わたしたちは、もし悪い者だと証明されるなら、名前のゆえに放免を求めるのは正しくないと考えます。ですから逆に、こう言います。もし呼び名のゆえにも、暮らし方のゆえ

にも、わたしたちに何の不義も見いだされないなら、心配すべきなのはあなたがたです。証明されてもいない者を不義に罰して、あなたがた自身が正義の罰を受けることにならないかと。4:3 実際、名前だけからほめたり罰したりするのは、道理に合いません。もし行いによって、何か徳のあることか悪いことが示されないなら、です。実際、あなたがたの前で訴えられるほかの人々のだれにも、罪が証明される前に刑罰を科すことはしません。ところが、わたしたちの場合には、名前を証拠として受け取っています。しかし、名前から言えば、あなたがたはむしろ、訴える者たちのほうを罰すべきなのです。4:4 実際、わたしたちは、キリスト者であることを訴えられています。しかし、善良なものが憎まれるのは正しくありません。さらに、こういうこともあります。もし訴えられた者のだれかが口先で否み、キリスト者ではないと言うなら、あなたがたはその人を放免します。罪を犯していると証明できることが、何もないかのようにです。しかし、もしだれかがキリスト者であると告白するなら、その告白のゆえに罰します。ほんとうは、告白する者の生活も、否む者の生活も、調べるべきです。行いによって、それぞれがどのような人かが明らかになるためです。4:5 実際、ある人々は、否まないことを師であるキリストから教えられていながら、取り調べられると、否むように仕向けられます。それと同じように、そうした人々は、悪い生き方をして、口実を与えているのかもしれません。もともと、すべてのキリスト者に神を敬わない者、不義な者という罪を着せようとしている人々にです。4:6 しかし、これも正しいやり方ではありません。実際、哲学の名と装いを身にまとっていても、その公言にふさわしいことを何一つ行わない人々もいます。また、あなたがたも知っているとおり、昔の人々の中には、互いに反対の考えを持ち、反対のことを教えた人々もいます。その人々も、哲学者という一つの名で呼ばれています。4:7 その中には、無神論を教えた者もいます。また、かつての詩人たちは、ゼウスが、その子供たちと並んでみだらであったと言いふらしています。それでも、あなたがたは、その教えを学ぶ人々を差し止めません。むしろ、美しい声でこの神々をはずかしめる者たちに、賞品と誉れを与えています。

5:1 では、これはいったいどういうことでしょうか。わたしたちは、何の不義も行わず、こうした無神論の考えも持たないと約束しています。それなのに、わたしたちについては、あなたがたは取り調べて裁くことをしません。そうではなく、理に合わない激情と、邪悪な悪霊たちのむちに駆り立てられて、何も顧みずに、裁きもせずに罰するのです。5:2 実際、真実を言いましょう。昔、邪悪な悪霊たちが姿を現し、女たちと姦淫し、少年たちを汚し、人々に恐ろしいものを見せました。そのため、人々は震え上がりました。彼らは、起きたことを理性で判断するのではなく、恐れに取りつかれ、それが邪悪な悪霊だとは知らずに、神々と呼びました。そして、悪霊がそれぞれ自分に付けた名で、一つ一つを呼んだのです。5:3 ソクラテスは、真の理性によって、よく取り調べながら、こうしたことを明るみに出し、人々を悪霊から引き離そうとしました。すると悪霊たちは、悪徳を喜ぶ人間たちを通して働き、ソクラテスまでも、無神論者で神を敬わない者として殺させました。彼が新しい神霊を持ち込んでいる、と言い立てたのです。悪霊たちは、わたしたちに対しても、同じように同じことをしています。5:4 実際、こうしたことがロゴスによって暴かれたのは、ギリシャ人のあいだで、ソクラテスを通してだけではありません。未開の人々のあいだでも、ロゴスご自身によって暴かれました。ロゴスは形をとられ、人となられて、イエス・キリストと呼ばれたのです。わたしたちはこのかたに従い、こうしたことを行った悪霊たちについて言います。彼らは正しい者でないばかりか、悪い、神聖を汚す悪霊であって、徳を慕う人間とさえ似た行いをしない、と。

訳注

1 別の伝承では、ルキウス自身が『哲学者』と呼ばれる。

6〜12章　無神論という非難、偶像のむなしさ、キリスト者の望み

6:1そのために、わたしたちは無神論者とまで呼ばれています。たしかに、わたしたちは認めます。そのように神々と見なされているものについては、無神論者です。しかし、何よりも真実な神については、そうではありません。この神は、正義と慎みとほかの徳の父であり、悪徳の少しも混じらない方です。かえって、わたしたちがあがめ、拝むのは、この神です。また、このかたのもとから来られて、わたしたちにこれらのことを教えてくださった御子です。さらに、つき従い、似た者とされている、ほかの良い御使いたちの軍勢と、預言の霊です。わたしたちは、理性と真理とをもって誉れをささげています。そして、学びたいと望むすべての人に、わたしたちが教えられたとおりに、惜しみなく伝えています。

7:1しかし、だれかが言うでしょう。「すでに何人かが捕らえられて、悪事を働く者だと証明されたではないか」。実際、あなたがたは多くの人を、たびたび罪に定めています。そのつど、訴えられた者の生活を取り調べたうえでのことです。前に罪が証明されたほかの者たちのゆえに、罪に定めるのではありません。7:2さて、概して言えば、わたしたちは次のことも認めます。ギリシャ人のあいだでは、自分の気に入ることを説として立てた人々が、だれもかれも、哲学という一つの名で呼ばれています。その説が互いに反対であってもです。それと同じように、未開の人々のあいだで知恵ある者となった人々や、そう思われた人々にも、付けて呼ばれる名は共通しています。実際、みなキリスト者と呼ばれているのです。7:3ですから、わたしたちは求めます。あなたがたの前で訴えられるすべての人の行いを、裁いてください。罪が証明された者が、キリスト者としてではなく、不義な者として罰せられるためです。また、もし罪が証明されない者がいれば、何の不義も行っていないキリスト者として放免されるためです。7:4実際、訴える者たちを罰するよう、あなたがたに求めるつもりはありません。彼らには、身についている邪悪さと、良いことを知らないことで、もう十分だからです。

8:1考えてみてください。わたしたちがこう言ってきたのは、あなたがたのためです。そのことは、取り調べられるときに否むことが、わたしたちにはできることからわかります。しかし、わたしたちは偽りを語って生きることを望みません。実際、わたしたちは、永遠の清い生活を慕い求め、万物の父であり創造者である神とともに暮らすことを求めています。そして、急いで告白するのです。わたしたちは、こう確信し、信じています。自分が神に従い、神のもとでの暮らしを慕ったことを、行いによって神に納得していただいた人々は、それを得ることができる、と。神のもとでは、悪徳が立ちはだかることはありません。8:2さて、手短に言えば、わたしたちが待ち望み、キリストを通して学び、教えていることは、これです。プラトンも同じように言いました。ラダマンテュスとミノスが、自分たちのもとに来た不義な者たちを罰するだろう、と。わたしたちも、同じことが起こると言います。ただし、それはキリストによってです。また、不義な者たちは、魂とともに同じからだのうちにあって、永遠の罰を受けるのです。プラトンが言ったように、千年の周期のあいだだけ罰を受けるのではありません。8:3では、もしだれかが、これは信じられない、ありえないと言うとしましょう。その誤りは、わたしたちにかかわるだけで、ほかのだれにもかかわりません。わたしたちが行いの上で何一つ不義を行っていないと示されているかぎりは、です。

9:1また、わたしたちは、多くの犠牲や花輪で誉れをささげることもしません。人間が形を造り、神殿に据えて、神々と名づけたものにです。それらには魂がなく、死んだものであり、神の形を持たないと知っているからです。実際、わたしたちは、神がそのような形を持っておられるとは考えません。ある人々が、誉れを表すためにまねたと言う形です。そうではなく、それらは、かつて姿を現した、あの悪い悪霊たちの名と姿を持っているのです。9:2実際、知っているあなたがたに、何を言う必要があるでしょうか。匠たちは、材料を削り、切り、鋳込

み、打ちたたいて仕上げます。しかも、しばしば卑しい器から、技術によって形だけを変え、姿を造って、神々と名づけるのです。9:3 わたしたちは、これが理に合わないだけでなく、神をはずかしめることだと考えます。神は、言い表せない栄光と形を持っておられるのに、朽ちて、手入れを必要とする物に、その名が付けられているからです。9:4 また、それを造る匠たちが好色で、あらゆる悪徳を持っていることは、あなたがたがよく知っているとおりです。一つ一つ数え上げないですむように、あらゆる悪徳と言っておきます。彼らは、いっしょに働く自分の女奴隷たちさえ汚します。なんという愚かさでしょう！　ふしだらな人間たちが、拝まれるための神々を形造り、造り直すと言われるとは。また、神々が奉納される神殿に、そのような者たちを番人として置くとは。置く者たちは、人間が神々の番人だと考えたり言ったりすることさえ、道にはずれたことだと見て取らないのです。

10:1 しかし、わたしたちは、神が人間からの物質のささげ物を必要とされない、と伝えられています。神ご自身がすべてのものを与えておられるのを見ているからです。わたしたちが教えられ、確信し、信じているのは、次のことです。神が受け入れてくださるのは、神に備わる良いものに倣う人々だけです。それは、慎み、正義、人を愛する心など、神にふさわしいものです。神は、人が定めたどんな名でも呼ばれることのない方です。10:2 また、わたしたちは教えられています。神は善い方なので、初めに、形のない物質から、人間のためにすべてのものを造られた、と。そして、伝えられています。人間が、行いによって自分を神のみこころにふさわしい者と示すなら、神とともに暮らすにふさわしい者とされる、と。その人々は、朽ちず、苦しみを受けない者となって、ともに王として治めるのです。10:3 実際、神は初めに、存在していなかったわたしたちを造られました。わたしたちは、こう考えます。それと同じように、神に喜ばれることを選ぶ人々も、選んだことによってふさわしい者とされるのです。朽ちないことと、神との交わりにです。10:4 実際、初めに存在するようになったことは、わたしたちによることではありませんでした。しかし、神に喜ばれることを選んで従っていくよう、神はわたしたちを説き伏せ、信仰へ導いてくださいます。選ぶのは、神ご自身が与えてくださった理性の力によってです。10:5 わたしたちは、こう考えます。人々がこれらのことを学ぶのを妨げられないばかりか、それへと促されることは、すべての人のためになる、と。実際、人間の法にはできなかったことを、神のロゴスなら成し遂げたでしょう。もし邪悪な悪霊たちが、偽りの、無神論の訴えを数多くまき散らさなかったなら、です。悪霊たちは、それぞれの人のうちにある悪い欲を味方につけました。その欲は、生まれつきあらゆるものに向かい、さまざまな形をとります。しかし、そうした訴えのどれ一つも、わたしたちには当てはまりません。

11:1 あなたがたは、わたしたちが王国を待ち望んでいると聞きました。そして、よく確かめもせずに、人間の王国のことを言っているのだと思い込みました。しかし、わたしたちが言っているのは、神とともにある王国です。そのことは、次のことからも明らかです。わたしたちは、あなたがたに取り調べられると、キリスト者であると告白します。告白する者には死の刑罰が定められていると、知っていながらです。11:2 実際、もしわたしたちが人間の王国を待ち望んでいるのなら、殺されないために否むでしょう。また、待ち望むものを得るために、身を隠そうとするでしょう。しかし、わたしたちは、今の世に望みを置いてはいません。ですから、人々がわたしたちを殺しても、気にかけません。死は、どのみちだれもが負わなければならないものだからです。

12:1 わたしたちは、平和のために、どんな人々にもまさって、あなたがたの助け手であり、味方です。わたしたちは、こう考えているからです。悪を行う者も、貪欲な者も、たくらむ者も、徳のある者も、神に隠れることはできない。そして、だれもが、行いにふさわしく、永遠の罰か救いかへ進んで行く、と。12:2 実際、もしすべての人がこのことを知っていたなら、だれも、しばらくのあいだのために悪徳を選びはしないでしょう。火による永遠の断罪へ進んで行くと知っているからです。そうではなく、あらゆる仕方で自分を抑え、徳で身を飾るでしょう。神からの良いものを得て、罰から解き放たれるためです。12:3 実際、ある人々は、あなたがたの定めた法と罰のために、不義を行いながら隠れようとします。人間であるあなたがたには隠れおおせると知っていて、不義を行うのです。しかし、行いだけでなく、たくらみさえ、何一つ神に隠れることはできません。その人々も、もしそれを学び、確信していたなら、待ち受けているもののゆ

えに、あらゆる仕方で身を正していたでしょう。あなたがたも、そう認めるでしょう。12:4しかし、あなたがたは恐れているようです。すべての人が正しく行うようになって、罰する相手がもういなくなるのではないかと。そのようなことは死刑執行人の仕事であって、良い治める者の仕事ではないでしょう。わたしたちは確信しています。これらのことも、先に述べたように、邪悪な悪霊たちによって引き起こされているのだと。悪霊たちは、理に合わずに生きる人々からも、いけにえと奉仕を求めます。しかし、敬虔と哲学を慕うあなたがたが、理に合わないことをするとは、わたしたちは思っていません。12:5しかし、もしあなたがたも、愚かな人々と同じように、真理よりも習わしを重んじるなら、できることをするがよいでしょう。しかし、真理よりも人の評判を重んじる治める者にできることは、荒野の強盗にできることと変わりません。12:6しかし、あなたがたが望みどおりの結果を得られないことは、ロゴスが示しておられます。わたしたちの知るかぎり、ロゴスをお生みになった神に次いで、ロゴスほど王にふさわしく、正しく治める方はほかにいません。実際、だれもが、父親の貧しさや苦しみや不名誉を受け継ぐことを避けようとします。それと同じように、思慮ある人は、選ぶべきでないとロゴスがお告げになることを、何一つ選ばないでしょう。12:7これらのことがすべて起こると、わたしたちの師イエス・キリストが、あらかじめ告げておられた、とわたしは言います。このかたは、万物の父であり支配者である神の御子であり、使者です。わたしたちがキリスト者と呼ばれるのも、このかたから来ています。12:8ですから、わたしたちは、このかたが教えられたすべてのことについても、確信を持つようになります。このかたが、起こる前にあらかじめ告げられたことが、実際に起こっているのが見えるからです。起こる前に告げ、そして告げられたとおりに起こるのが示されること。これこそ、神のわざです。12:9さて、わたしたちは、ここで筆をおき、もう何も付け加えなくてもよかったでしょう。わたしたちの求めていることが正しく、真実であると考えてのことです。しかし、無知にとらわれた魂が、すぐに考えを改めるのはたやすくないことを、わたしたちは知っています。そこで、真理を愛する人々を説き伏せるために、少しばかり付け加えようと思い立ちました。真理が示されれば、無知を逃れることもできないことではないと、知っているからです。

13〜15章　キリスト者の礼拝と、キリストの教え（慎み、愛、分かち合い）

13:1 さて、わたしたちは無神論者ではありません。わたしたちは、この万物の造り主をあがめています。そして、教えられたとおり、このかたは血も、注ぎの供え物も、香も必要とされない、と言います。また、食べるすべてのものについて、祈りと感謝の言葉によって、力のかぎりこのかたをほめたたえます。このかたにふさわしい唯一の誉れは、これだと伝えられているからです。このかたによって養いのために造られたものを、火で焼き尽くさず、自分たちと困っている人々に与えること。そして、このかたに感謝して、言葉によって荘重な祈りと賛美の歌をささげることです。わたしたちが造られたことと、健やかに生きるためのあらゆる手だてのために、感謝するのです。そのような手だてとは、さまざまな種類のものの性質と、季節の移り変わりです。また、このかたを信じる信仰によって、ふたたび朽ちないものとされることを願い求めます。健全な考えを持つ人で、これを認めない者がいるでしょうか。13:2 また、わたしたちは、イエス・キリストを、ほんとうの神の御子であると学び、第二の位に置いています。このかたは、わたしたちにこれらのことを教える師となられ、そのためにお生まれになりました。テベリオ・カイザルの時代にユダヤの総督であったポンテオ・ピラトのもとで、十字架につけられた方です。さらに、預言の霊を第三の位に置いています。わたしたちが、キリストと預言の霊とに、理性をもって誉れをささげていることを、示しましょう。13:3 実際、人々は、まさにこの点で、わたしたちが狂っていると言い立てます。神は、変わることなく、永遠におられ、万物の生みの親である方です。わたしたちが、この神に次ぐ第二の位を、十字架につけられた人間に与えている、と言うのです。人々は、ここにある奥義を知らないのです。わたしたちがそれを説き明かすとき、心を留めるよう、あなたがたに勧めます。

14:1 実際、わたしたちは、あなたがたに前もって言っておきます。用心してください。先にわたしたちが訴えた悪霊たちが、あなたがたを欺かないためです。ここに述べることを読んで理解することから、まったく遠ざけてしまわないためです。実際、悪霊たちは、あなたがたを奴隷とし、仕える者としようと努めています。そして、あるときは夢に現れることによって、あるときはまた魔術のからくりによって、すべての人を屈服させます。自分の救いのために少しも努めない人々をです。わたしたちも、同じように、ロゴスに説き伏せられてからは、悪霊たちから離れました。そして、ただ一人の生まれることのない神に、御子を通して従っています。かつては不品行を喜んでいたわたしたちが、今はただ慎みだけを喜んで受け入れています。わたしたちのうち、魔術を用いていた者たちも、今は、善い、生まれることのない神に、自分をささげています。財産や持ち物を得る手だてを、何よりも大切にしていたわたしたちが、今は、持っているものを共同のものとしています。そして、困っているすべての人と分かち合っています。わたしたちは、互いに憎み合い、殺し合っていました。習わしが違うために、同族でない人々とは炉さえ共にしませんでした。そのわたしたちが、今は、キリストが現れてから、ともに暮らす者となりました。そして、敵のために祈り、不義にわたしたちを憎む人々を説き伏せようと努めています。その人々も、キリストの良い勧めに従って生きて、良い望みを持てるようにするためです。わたしたちとともに、万物を支配される神から同じものを得るという望みです。14:2 論証の前に、キリストご自身の教えのうち、いくつかを挙げておくのがよいと考えました。わたしたちが、あなたがたを言葉巧みに欺いていると思われないためです。わたしたちが本当にこれらのことを教えられ、また教えているかどうか。それを取り調べることは、力ある王であるあなたがたに任せます。14:3 このかたから出た言葉は、短く簡潔でした。実際、このかたは弁論家ではなく、このかたの言葉は神の力だったのです。

15:1 さて、慎みについては、こう言われました。『だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、神の前で、心の中ですでに姦淫をしたのである』（マタイ五・二

八)。また、『もしあなたの右の目が罪を犯させるなら、それを切り取れ。片目になって天国に入る方が、両眼がそろったままで永遠の火に送られるよりも、あなたにとって益である』(マタイ五・二九、一八・九)。15:2 また、『ほかの夫から出された女をめとる者は、姦淫を行うのである』(マタイ五・三二)。また、『人々によって独身者にされた者があり、独身者に生れついた者があり、天国のために、みずから独身者となった者もある。しかし、すべての人がこれを受けいれるのではない』(マタイ一九・一一〜一二)。15:3 人の法に従って二度目の結婚をする者たちは、わたしたちの師の前で罪人です。それと同じように、情欲をいだいて女を見る者たちも罪人です。実際、行いで姦淫する者だけでなく、姦淫しようと望む者も、このかたによって退けられています。神には、行いだけでなく、心の思いも明らかだからです。15:4 また、子供のころからキリストの弟子とされた多くの男や女が、六十歳、七十歳になっても、清いままでいます。わたしは、人間のあらゆる種族の中から、そのような人々を示すことができると、公言します。実際、ふしだらな生き方から立ち返って、これらのことを学んだ数えきれない群衆については、何と言えばよいでしょうか。15:5 実際、キリストは、正しい者や慎み深い者ではなく、神を敬わない者、ふしだらな者、不義な者を、悔い改めに招かれました。キリストは、こう言われました。『わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである』(マタイ九・一三、ルカ五・三二)。15:6 実際、天の父は、罪人が罰を受けることより、悔い改めることを望んでおられます。また、すべての人をいつくしむことについては、こう教えられました。『自分を愛する者を愛したからとて、なんの新しいことをしているのか。15:7 不品行な者たちでも、そうしている。しかし、わたしはあなたがたに言う。敵のために祈り、あなたがたを憎む者を愛し、あなたがたをのろう者を祝福し、あなたがたをはずかしめる者のために祈れ』(マタイ五・四四、四六、ルカ六・二七〜二八、三二)。15:8 また、困っている人々と分かち合うこと、何事も人の評判を求めて行わないことについては、こう言われました。『求める者にはだれにでも与えよ。借りようとする者を断るな。返してもらうつもりの相手に貸すなら、なんの新しいことをしているのか。15:9 取税人でも、そうしている。しかし、あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、強盗らが押し入るような地上に、宝をたくわえてはならない。むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかない天に、宝をたくわえなさい。15:10 たとい人が全世界をもうけても、自分の命を失ったら、なんの得になろうか。また、その命の代わりに、何を与えることができようか。だから、虫も食わず、さびもつかない天に、宝をたくわえなさい』(ルカ六・三〇、三四、マタイ五・四二、六・一九〜二〇、一六・二六)。15:11 また、『あなたがたの父がなさけ深く、慈悲深い方であるように、あなたがたも、なさけ深く、慈悲深い者となれ。父は、罪人にも、正しい者にも、悪い者にも、太陽をのぼらせてくださる。15:12 何を食べようか、何を着ようかと、思いわずらうな。あなたがたは、鳥や獣よりもすぐれているではないか。しかも、神はそれらを養っていてくださる。だから、何を食べようか、何を着ようかと、思いわずらうな。あなたがたの天の父は、これらのものがあなたがたに必要であることを、ご存じである。15:13 天国を求めよ。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。宝のある所には、人の思いもあるからである』(ルカ六・三六、マタイ五・四五、六・二五〜三三、二一)。また、『人に見せるために、これらのことをしてはならない。もし、そうしないと、天にいますあなたがたの父から、報いを受けることはない』(マタイ六・一)。

16〜19章　キリストの教え（忍耐、誓い、税）と、死後の感覚と復活

16:1 また、忍耐強く、すべての人のために進んで働き、怒らない者であることについて、言われたことは次のとおりです。『あなたの頬を打つ者には、ほかの頬をも向けてやれ。あなたの下着か上着を奪い取る者を、拒むな。16:2 怒る者は、火に投げ込まれるべきである。あなたをしいて一マイル行かせようとする者には、だれにでも、二マイルついて行け。あなたがたの良い行いを、人々の前に輝かせよ。人々がそれを見て、天にいますあなたがたの父に感嘆するためである』（ルカ六・二九、マタイ五・一六、二二、四一）。16:3 実際、手向かってはなりません。キリストは、わたしたちが悪い者たちをまねることを、望んでおられません。そうではなく、忍耐と柔和によって、すべての人を、恥ずべきことと悪への欲望から導き出すよう、勧められました。16:4 実際、このことは、かつてあなたがたの側にいた多くの人々について、示すことができます。その人々は、乱暴で横暴な者であったのに、変わりました。打ち負かされたのです。隣人の生活の忍耐強さを見届けたり、損をさせられた旅の道連れの、並はずれた忍耐に目を留めたりしたからです。あるいは、ともに商いをする者たちの忍耐を、身をもって知ったからです。16:5 また、いっさい誓わず、いつも真実を語ることについては、こう命じられました。『いっさい誓ってはならない。あなたがたの「しかり」を「しかり」とし、「否」を「否」とせよ。それ以上に出ることは、悪から来るのである』（マタイ五・三四、三七、ヤコブ五・一二）。16:6 また、神だけを拝むべきことについては、こう言って、わたしたちを説き伏せられました。『いちばん大切ないましめは、これである。主なるあなたの神を拝し、心をつくし、力をつくして、ただ神にのみ仕えよ』（マタイ二二・三七〜三八、マルコ一二・三〇）。その神とは、あなたを造られた主なる神です。16:7 また、ある人がキリストのもとに来て、『よき師よ』と言ったとき、キリストは答えて言われました。『すべてを造られた神ひとりのほかに、よい者はいない』（マルコ一〇・一七〜一八、ルカ一八・一八〜一九）。キリストが教えられたとおりに生きていないと分かる者は、キリスト者ではないと見分けられるべきです。たとえ、口先ではキリストの教えを語っていてもです。実際、キリストは、ただ語るだけの者ではなく、行いをもなす者が救われる、と言われました。16:8 実際、こう言われました。『わたしにむかって「主よ、主よ」と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。16:9 わたしに聞き、わたしの言うことを行う者は、わたしをおつかわしになったかたに聞くのである。多くの者が、わたしにむかって言うであろう。「主よ、主よ、わたしたちはあなたの名によって食べ、飲み、力あるわざを行ったではありませんか」。16:10 そのとき、わたしは彼らに言おう、「不法を働く者どもよ、わたしから離れ去れ」。そのとき、泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう。義人たちが太陽のように輝き、不義な者たちが永遠の火に送られるときである。16:11 多くの者が、わたしの名を名のってやって来る。外側には羊の皮を着ているが、内側は強欲なおおかみである。あなたがたは、その行いによって彼らを見わけるであろう。良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれる』（マタイ七・一五〜一六、一九、二一〜二三、一三・四二〜四三、ルカ一〇・一六、一三・二六）。16:12 キリストの教えに従って生きず、ただキリスト者と呼ばれているだけの者たちがいます。その者たちが、あなたがたによっても罰せられることを、わたしたちは求めます。

17:1 また、わたしたちは、あなたがたが各地に任じた役人たちに、だれよりも先に、税と納め物を納めるよう心がけています。キリストから教えられたとおりです。実際、そのころ、ある人々がキリストのもとに来て、カイザルに税を納めるべきかどうか、尋ねました。17:2 キリストは答えられました。『わたしに言いなさい。その貨幣には、だれの肖像があるのか』。彼らは『カイザルのです』と言いました。キリストはまた彼らに答えられました。『それでは、カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい』（マタイ二二・一七、一九〜二

一）。ですから、わたしたちは、神だけを拝みます。しかし、ほかのことでは、喜んであなたがたのために務めを果たします。あなたがたが王であり、人々を治める者であると認めます。そして、あなたがたが王の力とともに、健全な判断力をも持っていると分かるよう、祈ります。17:3わたしたちは、このように祈り、すべてを明らかにしています。それでもあなたがたが心に留めないとしても、わたしたちは少しも害を受けません。わたしたちは、こう信じ、いや、むしろ確信しているからです。各人は、その行いにふさわしく、永遠の火によって罰を受けます。また、神から受けた力に応じて、申し開きを求められます。キリストが、こう言って明らかにされたとおりです。『神がより多くお与えになった者からは、より多く求められるであろう』（ルカ一二・四八）。

18:1実際、これまでの王たちの、それぞれの最期に目を向けてください。だれもが、すべての人と同じ死を迎えました。もし死が、感覚のなくなることに行き着くのなら、それはすべての不義な者にとって、思いがけないもうけものだったでしょう。18:2しかし、かつて生きたすべての者に感覚が残り、永遠の罰が備えられています。ですから、これらのことが真実であると確信し、信じることを、おろそかにしないでください。実際、次のものによって、魂は死んだ後にも感覚を持っていると、確信してください。死者の口寄せ、清い子供たちの臓腑を見る占い、人間の魂の呼び出しがあります。魔術師たちのもとで「夢を送る者」や「付き添う霊」と呼ばれるものがあります。これらのことを心得ている者たちの行うわざもあります。また、死者の魂に捕らえられ、投げ倒される人々がいます。だれもが、悪霊に取りつかれた者、狂った者と呼ぶ人々です。また、あなたがたのところで、アンフィロコス、ドドナ、ピュトの神託所と呼ばれるもの、そのほかの同じようなものがあります。さらに、著作家たちの教えがあります。エンペドクレスとピュタゴラス、プラトンとソクラテスの教えです。ホメロスの描く穴があり、死者たちを訪ねるための、オデュッセウスの冥府下りがあります。これらの者と同じことを語った人々の教えもあります。それなら、せめてこれらの者と同じように、わたしたちをも受け入れてください。わたしたちは、この人々に劣らず、いや、むしろもっと神を信じています。死んで地に投げ込まれる自分のからだを、ふたたび受け取ると待ち望んでいるのです。神には何一つできないことはない、と言うのです。

19:1よく考える人にとって、次のことより信じがたく思われるものが、あるでしょうか。もしわたしたちがまだからだを持たず、だれかがこう言ったとします。人間の種のほんの小さな一滴から、骨と筋と肉が形づくられ、わたしたちが見ているようなものになりうる、と。19:2実際、今は仮に、こう言っておきましょう。あなたがたが、まだこのような者でもなく、このような者の子でもなかったとします。そこへ、だれかが人間の種と、描かれた絵とを見せて、このようなものから、このようなものが生じるのだと断言したとします。それが生じるのを見る前に、あなたがたは信じたでしょうか。19:3だれも、あえて言い返しはしないでしょう。ですから、同じように、あなたがたは、死人がよみがえったのをまだ見ていないために、信じられずにいるのです。しかし、あなたがたは、初めは、小さな一滴からこのような者が生じうるとは、信じなかったでしょう。それでも、そのように生じるのを見ています。同じように、考えてください。人間のからだは、解けて、種のように地に散らされます。それでも、時が来れば、神の命令によってよみがえり、『朽ちないものを着る』ことは、できないことではないのです（第一コリント一五・五三）。19:4実際、ある人々は言い張ります。それぞれのものは、それが生じたもとへ帰っていくのであって、神でさえ、それ以外のことは何一つできない、と。この人々が、神にふさわしいどんな力を語っているのか、わたしたちには言えません。しかし、わたしたちには、このことは分かります。この人々は、自分たちと全世界を見て、それがどのようなものであり、どのようなものから生じたかを知っています。けれども、そのようなものがいつか生じうるとは、信じなかったでしょう。19:5わたしたちは、こう伝えられています。ほかの人々と同じように信じないでいるより、わたしたち自身の本性にも、人間にもできないことでも、信じる方がよい、と。わたしたちの師イエス・キリストが、こう言われたのを知っているからです。『人にはできない事も、神にはできる』（ルカ一八・二七）。19:6また、こう言われました。『あなたがたを殺しても、そのあとでなにもできない者どもを恐れるな。むしろ、人が死んだのちに、魂もからだも地獄に投げ込むことのできるかたを恐れなさい』（ル

カ一二・四〜五)。19:7 地獄とは、不義に生き、神がキリストを通して教えられたことが起こると信じない者たちが、罰せられる場所です。

20〜25章　詩人や哲学者たちとの類比と、わたしたちだけが憎まれること

20:1 シビュラとヒュスタスペスも、朽ちるものが火によって焼き尽くされることになる、と言いました。また、ストア派と呼ばれる哲学者たちは、神そのものさえ火に解けていくと説きます。そして、変化によって、世界がふたたび生じると言います。しかし、わたしたちは、すべてを造られた神を、変わっていくものより優れたかたと考えます。20:2 ですから、わたしたちは、あなたがたのところで重んじられている詩人や哲学者たちと、同じようなことをいくつか語っています。また、あることは、もっと大きく、神にふさわしく語り、しかも、わたしたちだけが論証を添えて語っています。それなら、なぜ、すべての人にまさって、わたしたちが不義に憎まれるのでしょうか。20:3 実際、わたしたちが、すべてのものは神によって整えられ、生じたと言えば、プラトンの説を語っていると思われるでしょう。すべてが火で焼き尽くされることが起こると言えば、ストア派の説を語っていると思われるでしょう。また、不義な者たちの魂は、死んだ後にも感覚を持ったまま罰を受けると言います。優れた者たちの魂は、刑罰を免れて、幸せに過ごすと言います。そう言えば、詩人や哲学者たちと同じことを語っていると思われるでしょう。また、人の手で造ったものを拝むべきではない、とも言います。そう言うとき、喜劇作家メナンドロスや、このことを述べた人々と同じことを語っています。実際、その人々は、造る者は造られるものより大きいと言い切りました。

21:1 また、わたしたちは、神から最初に生まれたロゴスが、男女の交わりなしにお生まれになったと言います。わたしたちの師イエス・キリストのことです。そして、このかたは十字架につけられ、死なれ、よみがえって、天に昇られた、と言います。そう言っても、あなたがたのところでゼウスの子と言われる者たちに比べて、何も新しいことを持ち出しているのではありません。21:2 実際、あなたがたのところで重んじられている著作家たちは、多くの者をゼウスの子だと言い張っています。その数を、あなたがたは知っています。まず、ヘルメスです。解き明かすロゴスであり、すべての者の師だと言います。また、アスクレピオスです。医者でもあったのに、雷に打たれて、天に昇ったと言います。また、引き裂かれたディオニュソス、苦しみを逃れようとして自分を火に投じたヘラクレスがいます。レダから生まれたディオスクロイ、ダナエから生まれたペルセウスもいます。また、人間から生まれながら、ペガソスという馬に乗って天に昇ったベレロフォンもいます。21:3 実際、アリアドネや、彼女と同じように星にされたと言われる者たちについて、何を言いましょうか。また、あなたがたのところで死んでいく皇帝たちについて、何を言いましょうか。あなたがたは、その皇帝たちを、いつも不死の者とされるにふさわしいとみなします。そして、だれかを引き出して、焼かれたカイザルが火葬の火から天に昇っていくのを見た、と誓わせます。21:4 ゼウスの子と言われる者たちは、一人一人、どのような行いを語り伝えられているでしょうか。知っている人々に、それを言う必要はありません。ただ、これだけは言っておきます。これらのことは、教育を受ける者たちの益となり、励みとなるように書かれたのです。実際、だれもが、神々に倣う者となるのは良いことだと考えています。21:5 しかし、健全な考えを持つ魂は、神々について、次のような思いを抱いてはなりません。その人々の言うところでは、ゼウスは、すべてのものの導き手であり生みの親です。そのゼウスその人さえ、父を殺した者で、そのような父から生まれた者でした。悪く恥ずべき快楽への愛欲に負けて、ガニュメデスのもとへ、また、姦淫の相手とされた多くの女たちのもとへ行きました。また、自分の子らが同じようなことをしても、受け入れた、というのです。21:6 そうではなく、先に述べたように、これらのことをしたのは邪悪な悪霊たちです。しかし、わたしたちは、神の近くで、聖く、徳をもって生きる者たちだけが、不死の者とされると教えられています。また、不義に生き、生き方を変えない者たちは、永遠の火で罰せられると信じています。

22:1 また、イエスと呼ばれる神の子は、たとえ普通に生まれた、ただの人間だったとしても、神の子と呼ばれるにふさわしいかたです。その知恵のゆえです。実際、すべての著作家たちは、神を、人々と神々の父と呼んでいます。22:2 また、先に述べたように、わたしたちは、このかたが神のロゴスとして神からお生まれになったと言います。普通の生まれとは違う、特別なしかたです。それなら、このことは、ヘルメスを神からの知らせを告げるロゴスと言うあなたがたにも、共通のことだとしてください。22:3 また、もしだれかが、このかたが十字架につけられたことを責めるとします。このことも、あなたがたの言うゼウスの子らのうち、先に数え上げた、苦しみを受けた者たちと共通しています。実際、その者たちの死の苦しみも、同じではなく、それぞれ違うものとして語り伝えられています。そのため、苦しみの独特さの点でも、このかたが劣っているとは思われないはずです。そうではなく、約束したとおり、話が進むにつれて、このかたがまさっていることも示しましょう。いや、むしろ、それはすでに示されています。実際、まさっている者は、その行いによって明らかになるのです。22:4 また、わたしたちが、このかたはおとめによってお生まれになったと言うなら、このこともペルセウスと共通のこととしてください。また、このかたが、足のなえた者、中風の者、生まれつき体の悪い者をいやし、死人をよみがえらせられた、と言います。そう言えば、これも、アスクレピオスがしたと言われることと、同じようなことを言っていると思われるでしょう。

23:1 さて、次のことも、今あなたがたに明らかになるように、その証拠を挙げましょう。わたしたちは、キリストと、キリストより前に来た預言者たちから学んで語っています。それだけが真実であり、かつて現れたすべての著作家たちよりも古いのです。わたしたちが受け入れられることを求めるのは、その人々と同じことを語っているからではなく、真実を語っているからです。また、イエス・キリストだけが、特別なしかたで神の子としてお生まれになりました。神のロゴスであり、長子であり、力であるかたです。そして、神の御旨によって人となり、人類を変え、立ち返らせるために、これらのことをわたしたちに教えられました。また、このかたが人々のあいだで人となられる前に、ある者たちが先回りしました。先に述べた悪い悪霊たちのことです。その者たちは、自分で作り話にしたことを、詩人たちを通して、実際に起こったこととして語らせました。わたしたちに対して言われている、忌まわしい、神を敬わない行いも、同じしかたで仕組みました。それらの行いには、証人も論証もまったくありません。

24:1 第一に、わたしたちは、ギリシャ人と同じようなことを語っているのに、わたしたちだけが、キリストの名のゆえに憎まれています。何一つ不義をしていないのに、罪人として殺されています。ほかの人々は、ところによって、木や川、ねずみや猫やわに、理性のない動物の多くをあがめています。しかも、すべての人が同じものに誉れをささげているのではなく、ところによって違うものにささげています。そのため、同じものをあがめていないので、だれもが互いに、神を敬わない者になっています。24:2 あなたがたがわたしたちを訴えることのできるのは、ただ一つ、このことだけです。わたしたちが、あなたがたと同じ神々をあがめないことです。また、死者に、注ぎの供え物やいけにえを焼く香りをささげず、墓に冠やいけにえを供えないことです。24:3 実際、同じものが、ある人々のもとでは神々とされています。ある人々のもとでは獣、ある人々のもとではいけにえの動物とされています。あなたがたは、それをよく知っています。

25:1 第二に、わたしたちは、あらゆる民族から出た者で、かつてはセメレの子ディオニュソスや、レトの子アポロンをあがめていました。この二人が男たちへの愛欲のためにしたことは、口にするのも恥ずかしいものです。また、わたしたちのうち、ペルセフォネとアフロディテをあがめていた者たちもいます。アドニスのために狂おしく恋い焦がれた女神たちで、あなたがたはその秘儀も行っています。あるいは、アスクレピオスや、神々と呼ばれるほかのだれかをあがめていました。しかし、死をもって脅されても、わたしたちは、イエス・キリストによって、これらのものを軽んじました。そして、生まれることのない、苦しみを受けない神に、自分自身をささげました。わたしたちは、この神が情欲に駆られて、アンティオペやほかの女たちのもとへ行かれたとは信じていません。同じように、ガニュメデスのもとへ行かれたとも信じていません。また、テティスの助けを得て、あの百の手を持つ者に解き放たれたとも信じていません。それゆえ、テティスの子アキレウスを気遣い、そばめのブリセイスのために、多くのギリシ

ヤ人を滅ぼされたとも信じていません。わたしたちは、こう信じている人々をあわれみます。そして、こうしたことのもとになった悪霊たちを見抜いています。

26〜31章　悪霊が立てた者たち、子を捨てないこと、預言者の書物

26:1 第三に、キリストが天に昇られた後にも、悪霊たちは、ある人間たちを押し立てました。自分は神々だと言う者たちです。その者たちは、あなたがたに迫害されなかったばかりか、誉れを受けるにふさわしいとまでされました。26:2 まず、サマリヤ人シモンという者がいました。ギッタと呼ばれる村の出です。この者は、クラウデオ帝のとき、自分のうちで働く悪霊たちの術によって、魔術の力あるわざを行いました。そして、あなたがたの都、王都ローマで、神とみなされました。あなたがたから、神として像を立てられ、誉れを受けています。その像は、ティベル川の中の、二つの橋のあいだに建てられています。像には、ラテン語で、次の碑文が刻まれています。『聖なる神シモンに』。26:3 そして、サマリヤ人のほとんどすべてと、ほかの民族のうちのわずかな人々が、この者を第一の神と告白して、拝んでいます。また、ヘレネという女を、この者によって生じた最初の思いだと言っています。この女は、そのころシモンといっしょに巡り歩いていましたが、以前は娼家に身を置いていた者です。26:4 また、メナンドロスという者がいました。この者もサマリヤ人で、カッパレタイアという村の出です。シモンの弟子となり、この者も悪霊に動かされていました。そして、アンテオケにいたとき、魔術によって多くの人を欺いたことを、わたしたちは知っています。この者は、自分に従う者たちに、自分たちは死ぬことがない、と信じ込ませました。今も、この者から出て、このことを告白している者たちがいます。26:5 また、ポントのマルキオンという者がいます。この者は今もなお、自分の言うことを聞く者たちに教えています。造り主よりも大きな、別の神がいると考えよ、と。この者は、悪霊たちの助けによって、あらゆる民族の中で、多くの人々に冒瀆の言葉を口にさせました。この万物を造られた神を否ませ、ほかのある神を、より大きな者として、この神よりも大きなことをなしたと告白させたのです。26:6 この者たちから出た人々は、先に述べたように、みなキリスト者と呼ばれています。それは、哲学者たちのあいだで、同じ説をともにしない人々も、付けて呼ばれる哲学という名を、共通に持っているのと同じです。26:7 また、その人々が、作り話として語られている、あの忌まわしい行いをしているかどうかは、わたしたちは知りません。灯火を倒すこと、みだりな交わり、人の肉を食らうことです。しかし、その人々があなたがたに迫害されず、殺されもしないことは、知っています。少なくとも、その説のゆえに迫害されたり殺されたりすることはありません。26:8 また、わたしたちには、これまでに起こったすべての異端に反対して書きまとめた書物もあります。もし読みたいと思うなら、渡しましょう。

27:1 しかし、わたしたちは、生まれた子を捨てることさえ悪人のすることだと教えられています。何一つ不義をせず、神を敬わないこともしないためです。第一に、捨てられた子のほとんどすべてが、淫行へと連れて行かれるのを見るからです。少女だけでなく、男の子もそうです。昔の人々は、牛や山羊や羊の群れ、あるいは放牧の馬の群れを養ったと言われます。それと同じように、今では、子供たちまで、ただ恥ずべき用に使うためだけに養っています。同じように、あらゆる民族のあいだで、女たちの群れが、この汚れのために身をさらしています。男女両性の者たちや、口にできないことをする者たちの群れもそうです。27:2 しかも、あなたがたは、この者たちから、稼ぎや納め物や税を取り立てています。あなたがたの治める世界から、切り捨てるべきなのにです。また、この者たちを用いる者は、無神論の、神を敬わない、抑えのきかない交わりをするだけではありません。場合によっては、自分の子や親族や兄弟と交わることになります。27:3 また、自分の子や妻にまで客を取らせる者たちがいます。また、男色のために公然と自分を去勢する者たちもいて、その秘儀を神々の母に結びつけています。また、あなたがたのところで神々とされているどのものにも、大きなしるし、秘儀として、へびが描き添えられています。27:4 そして、あなたがたのところで公然と行われ、重んじられていることを、あなたがたは、わたしたちのせいにしています。まるで、神の光が倒されて消えた中で、わたしたちがそれを行っ

ているかのようにです。しかし、それらのことを何一つしないわたしたちには、そのことは害になりません。そうではなく、それを行い、偽りの証言をする者たちにこそ、害になります。

28:1 実際、わたしたちのもとでは、悪い悪霊たちのかしらは、ヘびとも、サタンとも、悪魔とも呼ばれています。あなたがたも、わたしたちの書物を調べれば、それを知ることができます。キリストは、この者が火に送られることを、前もって告げられました。この者は、自分の軍勢と、従う人間たちとともに、果てしない世々にわたって罰せられるのです。28:2 実際、神がまだそうなさらずに待っておられるのは、人類のためです。実際、神は、悔い改めによって救われることになる人々がいることを、前もって知っておられます。まだ生まれていないかもしれない人々の中にも、そういう人々がいるのです。28:3 また、神は初めから、人類を、知性を持ち、真実を選んで善を行うことのできるものとして造られました。そのため、すべての人間は、神の前で言い逃れができません。実際、人間は、理性を持ち、物事を見きわめる力を持つものとして生まれたのです。28:4 もしだれかが、神が人間のことを心にかけておられると信じないとします。その人は、神はおられない、と遠回しに認めることになります。あるいは、神はおられても悪徳を喜ばれるとか、石のように動かずにおられる、と言うことになります。また、徳も悪徳も何もなく、人間がただ思い込みで、これを善いとか悪いとか考えているだけだ、と言うことになります。これこそ、神を敬わないことと不義の、最たるものです。

29:1 また、わたしたちが子を捨てないのは、次のためでもあります。捨てられた子のだれかが拾われないまま死に、わたしたちが人殺しになることのないためです。そうではなく、わたしたちは、そもそも子供を育てるためでなければ結婚しません。あるいは、結婚を断って、まったく身を制して暮らしています。29:2 現に、わたしたちの仲間のある者は、みだりな交わりがわたしたちの秘儀ではないことを、あなたがたに確信させようとしました。そのために、アレキサンデリヤで、総督ペリクスに嘆願書を差し出し、医者に自分を去勢させる許しを求めました。実際、その地の医者たちが、総督の許しなしにそうすることは禁じられている、と言ったのです。29:3 しかし、ペリクスはまったく署名しようとしませんでした。そこで、その若者は独り身のままでいて、自分の良心と、同じ考えを持つ人々の良心とに満足しました。また、ここで、近ごろの人アンティノオスのことに触れるのも、不適当ではないと考えました。だれもが、恐れのゆえに、この者を神として先を争ってあがめました。この者がだれで、どこの出であったかを知っていながらです。

30:1 しかし、だれかが、わたしたちに反論して、こう言うかもしれません。「あなたがたのもとでキリストと呼ばれている者も、人間から生まれた人間だ。魔術によって、あなたがたの言う力あるわざを行い、そのために神の子だと思われた。そう考えて、何がいけないのか」。そう言われることのないように、今から論証をしましょう。わたしたちは、語り伝える人々を信じて、そうするのではありません。そうではなく、起こる前に預言した人々によって、どうしても確信させられているのです。それが預言されたとおりに起こったこと、また今も起こっていることを、この目で見るからです。これこそが、最も大きく、最も真実な論証だと、あなたがたにも見えるだろうと思います。

31:1 さて、ユダヤ人のあいだに、神の預言者となった人々がいました。預言の霊は、この人々を通して、これから起こることを、起こる前に告げ知らせました。そして、その時々にユダヤ人のあいだに立った王たちは、この預言者たちの預言を手に入れて、大切に守りました。預言は、預言されたときに語られたとおり、彼ら自身のヘブル語で、預言者たち自身によって書物に書きまとめられていました。31:2 エジプト人の王プトレマイオスは、図書館を建て、すべての人々の書物を集めようとしました。そのとき、この預言のことも聞き知り、そのころユダヤ人の王であったヘロデのもとに使いを送りました。そして、預言の書物を自分のもとに送ってくれるよう求めました。31:3 ヘロデ王は、先に述べた彼らのヘブル語で書かれた書物を送りました。しかし、そこに書かれていることは、エジプト人には分かりませんでした。そこで、プトレマイオスは、ふたたび使いを送って、それをギリシヤ語に訳す人々をよこしてくれるよう、ヘロデに求めました。31:4 こうして、その書物は、今に至るまでエジプト人のもとにも残っています。また、至るところで、すべてのユダヤ人のもとにあります。ユダヤ人は、それを読んでいても、語られていることを悟りません。そうではなく、わたしたち

を敵とも、仇ともみなしています。そして、あなたがたと同じように、できるときにはいつでも、わたしたちを殺し、罰しています。あなたがたも、そのことを確信できるでしょう。31:5 実際、近ごろ起こったユダヤ戦争で、ユダヤ人の反乱の首謀者はバル・コクバでした。この者は、キリスト者だけを、恐ろしい刑罰に引いて行くよう命じました。イエス・キリストを否み、冒瀆するのでないかぎりです。31:6 その預言者たちの書物の中に、わたしたちは見いだしました。わたしたちのキリストであるイエスが、前もって告げ知らされていたのです。このかたが来られること、おとめによってお生まれになること、成人されることです。また、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやし、死人をよみがえらせられることです。また、ねたまれ、知られず、十字架につけられることです。また、死なれ、よみがえられ、天に昇られることです。また、神の子であり、そう呼ばれておられることです。また、このかたから、ある人々が、あらゆる民族のもとに遣わされて、これらのことを宣べ伝えることです。そして、異邦人のほうが、むしろこのかたを信じることです。31:7 このことは、このかたが現れられる前に預言されました。あるときは五千年前、あるときは三千年前、あるときは二千年前、また千年前、また別のときは八百年前です。実際、世代が受け継がれていくにつれて、次々に別の預言者たちが現れたのです。

32〜35章　ユダの王権、おとめからの誕生、ベツレヘム、十字架の預言

32:1 さて、預言者たちの最初の者となったモーセは、言葉どおりに、こう言いました。『ユダから治める者は絶えず、その腿から君も絶えない。それが備えられているかたが来るまで。彼はもろもろの民の待ち望む者となる。彼はそのろばの子をぶどうの木につなぎ、その衣をぶどうの血で洗う』（創世記四九・一〇〜一一）。32:2 ですから、あなたがたの務めは、よく取り調べて知ることです。ユダヤ人のあいだに、彼ら自身の治める者と王が、いつまでいたかをです。それは、イエス・キリストが現れられるまででした。このかたは、わたしたちの師であり、知られずにいた預言を解き明かすかたです。神の聖なる預言の霊が、モーセを通して前もって告げたとおりです。王国が備えられているかたが来るまで、ユダヤ人から治める者は絶えない、と。32:3 実際、ユダはユダヤ人の先祖です。ユダヤ人と呼ばれるのも、この人から来ています。そして、あなたがたは、キリストが現れられた後に、ユダヤ人を治める王となり、その全土を支配しました。32:4 また、『彼はもろもろの民の待ち望む者となる』とは、次のことを示しています。あらゆる民の中から、人々が、このかたがふたたび来られるのを待ち望むようになる、ということです。そのことは、あなたがたも、自分の目で見て、事実によって確信することができます。実際、あらゆる民族の人々が、ユダヤで十字架につけられたかたを待ち望んでいます。このかたが十字架につけられた後、すぐに、ユダヤ人の地は、戦いで奪い取られ、あなたがたの手に渡されました。32:5 また、『そのろばの子をぶどうの木につなぎ、その衣をぶどうの血で洗う』とは、しるしでした。キリストの身に起こること、またキリストがなさることを、明らかにするしるしです。32:6 実際、ある村の入り口に、一頭のろばの子が、ぶどうの木につながれて立っていました。そのとき、キリストは、それをご自分のところに引いて来るよう、弟子たちに命じられました。それが引かれて来ると、キリストはそれに乗って座り、エルサレムに入られました。そこには、ユダヤ人の最も大きな宮がありましたが、それは後に、あなたがたによって倒されました。そしてその後、キリストは十字架につけられました。預言の残りの部分が成就するためです。32:7 実際、『その衣をぶどうの血で洗う』とは、キリストがお受けになる苦しみを、前もって告げるものでした。キリストは、血によって、ご自分を信じる人々を清めながら、苦しみをお受けになることになっていたのです。実際、神の霊が預言者を通して『衣』と呼んだのは、キリストを信じる人々のことです。その人々のうちには、神からの種、すなわちロゴスが住んでおられます。32:8 また、『ぶどうの血』と言われているのは、次のことを示しています。現れることになるかたは、血を持たれる。しかし、それは人間の種からではなく、神の力からである、ということです。そして、万物の父であり支配者である神に次ぐ第一の力、また御子が、ロゴスです。このロゴスが、どのようにして肉体をとって人となられたかは、このあとで語りましょう。32:9 実際、ぶどうの木の血は、人間が造ったのではなく、神が造られました。それと同じように、このことも示されていました。この血は、人間の種からではなく、神の力から生じる、ということです。先に述べたとおりです。32:10 また、別の預言者イザヤも、同じことを別の言葉で預言して、こう言いました。『ヤコブから一つの星が出、エッサイの根から一つの花が生え出る。もろもろの民は、彼の腕に望みを置く』（民数記二四・一七、イザヤ一一・一、一〇）。32:11 輝く星が出、エッサイの根から花が生え出ました。それが、このキリストです。実際、このかたは、ヤコブの子孫であるおとめを通して、神の力によってお生まれになりました。ヤコブはユダの父であり、ユダは、先に示したように、ユダヤ人の父です。また、エッサイは、預言の言葉によれば、このかたの先祖となりました。そして、エッサイ自身は、血筋の受け継ぎによれば、ヤコブとユダの子孫でした。

33:1 また、このかたがおとめによってお生まれになることが、イザヤを通して、言葉どおりに前もって預言されていました。それを聞いてください。こう言われました。『見よ、おとめがみごもって男の子を産む。人々は、その名につい

て、「神はわれらと共におられる」と言う』（イザヤ七・一四）。33:2 実際、人々のあいだで、起こるとは信じられない、ありえないと考えられていたことがあります。そのことを、神は、預言の霊を通して、これから起こると前もって示されました。それが起こったときに、信じられないことのないためです。そうではなく、前もって告げられていたことによって、信じられるためです。33:3 しかし、ある人々が、ここに示した預言を悟らずに、わたしたちを責めることがあるかもしれません。わたしたちが詩人たちを責めたのと同じことで、です。詩人たちは、ゼウスが情欲のために女たちのもとに来た、と言いました。そう責められることのないように、この言葉をはっきりと説き明かしてみましょう。33:4 ですから、『見よ、おとめがみごもる』とは、おとめが交わりを持たずにみごもる、ということを意味しています。実際、もしだれかと交わったなら、もはやおとめではありません。そうではなく、神の力がおとめに臨んで、これをおおい、おとめのままでみごもらせたのです。33:5 また、そのとき、このおとめのもとに遣わされた神の御使いも、こう言って、おとめに良い知らせを告げました。『見よ、あなたは聖霊によってみごもって、男の子を産むであろう。その子は、いと高き者の子と、となえられるであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである』（ルカ一・三一〜三二、マタイ一・二一）。わたしたちの救い主イエス・キリストについてのすべてのことを書き記した人々が、そう教えています。わたしたちは、その人々を信じました。先に名を挙げたイザヤを通して、預言の霊も、このかたがお生まれになることを告げていたからです。それは先に示したとおりです。33:6 ですから、神からの霊と力とは、ロゴスにほかならないと考えるのが正しく、このロゴスは神の長子でもあります。先に名を挙げた預言者モーセは、このことを示しました。そして、この霊が、おとめに臨んでおおい、交わりによらず、力によって、みごもらせたのです。33:7 また、イエスという、ヘブル語の名は、ギリシヤ語で「救い主」を意味します。ですから、御使いも、おとめにこう言いました。『その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである』（マタイ一・二一）。33:8 また、預言する人々が霊感を受けるのは、ほかのだれによるのでもなく、神のロゴスによるのです。このことは、あなたがたも、わたしの思うに、認めるでしょう。

34:1 また、このかたが地のどこでお生まれになることになっていたかを、聞いてください。別の預言者ミカが前もって告げたとおりです。ミカはこう言いました。『ユダの地、ベツレヘムよ、おまえはユダの君たちの中で、決して最も小さいものではない。おまえの中からひとりの君が出て、わが民の牧者となるであろう』（ミカ五・二、マタイ二・六）。34:2 それは、ユダヤ人の国にある一つの村で、エルサレムから六キロメートルあまり離れています。イエス・キリストは、その村でお生まれになりました。そのことは、あなたがたも、クレニオのもとで行われた人口調査の記録から、知ることができます。クレニオは、ユダヤにおける、あなたがたの最初の総督でした。

35:1 また、キリストが、お生まれになってから成人されるまで、ほかの人々に知られずにおられることになっていました。そして、実際にそのとおりになりました。そのことについて、前もって言われていた言葉を聞いてください。それは次の言葉です。『ひとりのみどりごがわれわれのために生まれた。ひとりの若者がわれわれに与えられた。まつりごとはその両肩にある』（イザヤ九・六）。これは、十字架の力を示すものです。このかたは、十字架につけられて、十字架に両肩を当てられたのです。このことは、話が進むにつれて、もっとはっきりと示されるでしょう。35:2 また、同じ預言者イザヤが、預言の霊によって霊感を受けて、こう言いました。『わたしは、従わず、言い逆らう民に、よからぬ道に歩む者たちに、手を伸べた。35:3 彼らは、今わたしにさばきを求め、あえて神に近づこうとする』（イザヤ六五・二、五八・二）。また、預言の霊は、別の預言者を通して、別の言葉でこう言います。『彼らはわたしの足と手を刺し貫いた。そして、わたしの着物をくじ引きにした』（詩篇二二・一六、一八）。35:4 これを語った、王であり預言者であるダビデは、そのどれをも受けませんでした。しかし、イエス・キリストは、両手を伸べられました。言い逆らい、このかたはキリストではないと言い張るユダヤ人たちによって、十字架につけられたのです。実際、預言者が言ったとおりのことが起こりました。彼らは、このかたをあざけって、裁判の席に座らせ、「わたしたちのためにさばけ」と言ったのです。35:5 また、

『わたしの手と足を刺し貫いた』とは、十字架の上で、このかたの手と足に打ち込まれた釘のことを言い表したものでした。そして、このかたを十字架につけた者たちは、十字架につけた後、その着物をくじ引きにして、自分たちのあいだで分けました。35:6 これらのことが起こったことは、ポンテオ・ピラトのもとで作られた記録から、知ることができます。また、このかたがろばの子に乗ってエルサレムに入られることも、はっきりと預言されていました。そのことについて、別の預言者ゼパニヤの預言の言葉を挙げましょう。35:7 それは次のとおりです。『シオンの娘よ、大いに喜べ、エルサレムの娘よ、呼ばわれ。見よ、あなたの王はあなたの所に来る。柔和であって、ろばに乗り、くびきを負うろばの子に乗って』（ゼカリヤ九・九、マタイ二一・五）。

36〜40章　預言の語り方、父とキリストの言葉、使徒たちの宣教の預言

36:1 また、預言者たちの言葉が、だれかになりかわって語られているのを聞くことがあるでしょう。そのときには、霊を吹き込まれた人々自身が語っているのだと考えないでください。そうではなく、彼らを動かしておられる神のロゴスが語っておられるのです。36:2 実際、ロゴスは、あるときは、これから起こることを前もって告げるように語られます。あるときは、万物の支配者であり父である神になりかわって、声を発せられます。あるときはキリストになりかわって、あるときは、主またはその父に答える民になりかわって語られます。同じことは、あなたがたの著作家たちにも見ることができます。すべてを書いているのは一人ですが、語り合う人物たちを登場させるのです。36:3 ユダヤ人たちは、預言者たちの書を持っていながら、このことを悟りませんでした。そのため、キリストが来られたときにも、このかたを認めませんでした。そればかりか、わたしたちをも憎んでいます。わたしたちが、このかたは来られたと言っているからです。また、前もって宣べ伝えられていたとおり、このかたが彼らによって十字架につけられたことを示しているからです。

37:1 このことも、あなたがたに明らかになるように、挙げましょう。先に名を挙げた預言者イザヤを通して、父になりかわって、次の言葉が言われました。『牛はその飼主を知り、ろばはその主人のまぐさおけを知る。しかしイスラエルはわたしを知らず、わが民は悟らない。37:2 ああ、罪深い国びと、罪に満ちた民、悪いすえ、不法の子らよ。あなたがたは主を捨てた』（イザヤ一・三〜四）。また、ほかの所で、同じ預言者が、同じように父になりかわって語るときには、こう言います。『あなたがたは、わたしのためにどんな家を建てようとするのか。37:3 主は言われる。天はわが位、地はわが足台である』（イザヤ六六・一）。また、ほかの所ではこうです。『あなたがたの新月と安息日とは、わが魂の憎むもの。大いなる断食の日と休みとに、わたしは耐えられない。あなたがたが、わたしにまみえようとして来ても、わたしはあなたがたに聞かない。37:4 あなたがたの手は血に満ちている。たとい麦粉や薫香を携えてきても、それはわたしの忌みきらうものだ。小羊の脂肪と雄牛の血とを、わたしは望まない。だれがこれらのものを、あなたがたの手から求めたか。37:5 むしろ、不義のきずなをことごとくほどき、無理な取り引きの結び目を断ち切れ。家のない者と裸の者をおおい、飢えた者にあなたのパンを裂いて与えよ』（イザヤ一・一一〜一五、五八・六〜七）。さて、預言者たちを通して、神になりかわって教えられていることがどのようなものであるかは、あなたがたにも分かるでしょう。

38:1 また、預言の霊がキリストになりかわって語るときには、こう声を発します。『わたしは、従わず、言い逆らう民に、よからぬ道に歩む者たちに、手を伸べた』（イザヤ六五・二）。38:2 また、こうも言います。『わたしは背を鞭にまかせ、ほおを平手打ちにまかせた。つばきの恥を避けるために、顔をそむけなかった。主はわたしの助け手となられた。それゆえ、わたしは恥じることがなかった。かえって、わたしは顔を堅い岩のようにした。わたしは決してはずかしめられないことを知った。わたしを義とする者が近くおられるからである』（イザヤ五〇・六〜八）。38:3 また、こう言うときもそうです。『彼らはわたしの着物をくじ引きにし、わたしの足と手を刺し貫いた。しかし、わたしはふして眠り、そして起き上がった。主がわたしをささえられたからである』（詩篇二二・一八、一六、三・五）。38:4 また、こう言うときもそうです。『彼らはくちびるで語り、かしらを振り動かして言った。「自分自身を救うがよい」』（詩篇二二・七〜八）。これらすべてのことが、ユダヤ人によってキリストに対してなされたことを、あなたがたは知ることができます。実際、このかたが十字架につけられたとき、彼らはくちびるを突き出し、かしらを振り動かして、こう言ったのです。「死人をよみがえらせた者は、自分自身を救うがよい」。

39:1 また、預言の霊が、これから起こることを預言するように語るときには、こう言います。『律法はシオンから出、主の言葉はエルサレムから出る。彼はも

ろもろの民のあいだにさばきを行い、多くの民を責める。彼らはそのつるぎを打ちかえて、すきとし、そのやりを打ちかえて、かまとする。国は国にむかって、つるぎを取らず、彼らはもはや戦いのことを学ばない』（イザヤ二・三〜四）。39:2そして、そのとおりになったことを、あなたがたは確信することができます。実際、エルサレムから、数にして十二人の人々が、世界へ出て行きました。この人々は無学で、語ることもできない者たちでした。しかし、神の力によって、あらゆる民族の人々に告げ知らせました。自分たちはキリストから遣わされ、すべての人に神の言葉を教えるのだ、と。そして、かつては互いに殺し合っていたわたしたちが、今では敵と戦わないばかりか、喜んでキリストを告白して死んでいくのです。取り調べる者たちに偽りを言わず、欺かないためです。39:3実際、このことで、わたしたちには、『舌は誓ったが、心は誓っていない』という言葉のとおりにすることもできたのです。しかし、あなたがたの兵士たちは、契約を結んで兵籍に加えられます。そして、自分のいのちよりも、親や祖国やすべての身内の者よりも、あなたがたへの誓いを大切にします。あなたがたは、彼らに朽ちないものを何一つ与えることができないのに、です。それなのに、朽ちないことを恋い慕うわたしたちが、すべてを耐え忍ばないとしたら、実におかしなことでしょう。与えることのできるかたから、望むものを受けるためであるのに、です。

40:1また、キリストの教えを宣べ伝え、その現れを告げ知らせた人々のことも、前もって言われていました。どのように言われていたかを、聞いてください。先に名を挙げた、預言者であり王である人が、預言の霊によって、こう言いました。『日は日に言葉をあふれ出させ、夜は夜に知識を告げる。40:2話す言葉も語る言葉も、その声の聞こえないものはない。その響きは全地に出て行き、その言葉は世界のはてにまで及んだ。40:3彼は太陽のうちにその幕屋を置いた。彼は、花婿がその祝のへやから出てくるように、巨人のように喜び勇んでその道を走る』（詩篇一九・二〜五）。これに加えて、同じダビデを通して預言された、ほかの言葉も挙げるのが良く、またふさわしいと、わたしたちは考えました。それらの言葉から、あなたがたは次のことを学ぶことができます。預言の霊が、人々にどのように生きるよう勧めているか。また、キリストに逆らって集まった者たちのことを、どのように示しているか。ユダヤ人の王ヘロデと、ユダヤ人自身と、彼らのもとにいた、あなたがたの総督ピラトが、その兵士たちとともに集まったのです。また、このかたが、あらゆる民族の人々に信じられることになっていたこと。神がこのかたを子と呼び、すべての敵をこのかたに従わせると約束しておられること。また、悪霊たちが、できるかぎり、権威から逃れようとしていること。万物の父であり支配者である神の権威からも、キリストご自身の権威からもです。そして、さばきの日が来る前に、神がすべての人を悔い改めに招いておられること、です。40:4その言葉は次のとおりです。『悪しき者のはかりごとに歩まず、罪びとの道に立たず、疫病のような者たちの座にすわらない人はさいわいである。その人は、ただ主のおきてをよろこび、昼も夜もそのおきてを思う。40:5その人は、水の流れのほとりに植えられた木のようになる。その木は時が来ると実を結び、その葉もしぼまない。その人のなすところは皆栄える。40:6悪しき者はそうではない、そうではない。むしろ、地の面から風の吹き去るもみがらのようだ。それゆえ、悪しき者はさばきの時に立ち上がらず、罪びとは正しい者のつどいに立たない。主は正しい者の道を知られるが、悪しき者の道は滅びるからである』（詩篇一篇）。40:7『なにゆえ、もろもろの民は騒ぎたち、国々の民は新しい事をたくらむのか。地の王たちは立ち構え、治める者たちはともに集まって、主とそのキリストとに逆らって言う。「われらは彼らのかせを断ち切り、彼らのくびきをわれらから投げ捨てよう」。40:8天に住む者は彼らを笑い、主は彼らをあざけられる。そのとき、主は怒りをもって彼らに語り、憤りをもって彼らをかき乱される。40:9しかし、わたしは、彼によって、その聖なる山シオンの上に王として立てられ、主の詔をのべ伝える。主はわたしに言われた。「おまえはわたしの子だ。きょう、わたしはおまえを生んだ。40:10わたしに求めよ。わたしはもろもろの民をおまえの嗣業として与え、地のはてまでもおまえの所有として与える。おまえは鉄のつえをもって彼らを牧し、陶工の器のように彼らを打ち砕くであろう」。40:11それで今、もろもろの王よ、悟れ。地をさばく者たちよ、みな戒めを受けよ。恐れをもって主に仕え、おののきをもって主を喜べ。戒めをしっかりとつかめ。さもないと主は怒り、主の憤りがたちまち燃え上がると

き、あなたがたは正しい道から外れて滅びる。主に寄り頼む者は皆さいわいである』（詩篇二篇）。

41〜44章　十字架の後に王となられるキリスト、預言と運命、自由な選び

41:1 また、預言の霊は、同じダビデを通して、別の預言によっても示しました。キリストが十字架につけられた後に王となられることです。そして、こう言いました。『全地よ、主に向かって歌え。日ごとにその救いを宣べ伝えよ。主は大いなるかたで、いとほめたたうべき者、すべての神々にまさって恐るべき者だからである。もろもろの民の神々は、みな悪霊の偶像だからである。しかし、神はもろもろの天を造られた。41:2 栄光と賛美はその御前にあり、力と誇りはその聖所にある。代々の父である主に、栄光を帰せよ。恵みを受けて、その御前に入り、その聖なる大庭で拝め。全地よ、その御前におののけ。堅く立てられ、動かされるな。もろもろの民の中で喜べ。主は木から[1]王となられた』（歴代志上一六・二三、二五〜三一、詩篇九六・一〜二、四〜一〇）。

42:1 預言の霊は、これから起こることを、すでに起こったことのように語ることがあります。先に挙げた言葉からも、それは推し量れるでしょう。このことも、はっきり説明しておきます。読む人々に、言い訳を与えることにならないためです。42:2 預言の霊は、起こると確かに知られていることを、すでに起こったことのように前もって告げるのです。そう受け取らなければならないことを知るために、語られていることに心を凝らしてください。ダビデは、キリストが人となられて十字架につけられる千五百年前に、先に挙げた言葉を語りました。キリストより前に生まれた人で、十字架につけられて、もろもろの民に喜びを与えた者は、一人もいません。キリストより後の人にもいません。42:3 しかし、わたしたちのイエス・キリストは、十字架につけられて死なれた後、よみがえられました。そして天に昇って、王となられました。このかたから出て、使徒たちを通してすべての民のあいだに宣べ伝えられたことのゆえに、喜びがあります。このかたがお告げになった朽ちないことを、待ち望む人々の喜びです。

43:1 わたしたちが先に述べたことから、こう思う人がいるかもしれません。わたしたちが、起こることは運命の必然によって起こる、と言い張っているのだと。前もって知られていたことを、前もって告げたと言うからです。そう思われないように、このことも解いておきます。43:2 刑罰と罰と良い報いとが、各人の行いにふさわしく与えられることを、わたしたちは預言者たちを通して学びました。そして、それが真実であると明言します。もしそうでなく、すべてが運命によって起こるのなら、わたしたち次第のことは、まったくないことになるからです。実際、この人は善く、あの人は悪い、と運命で定められているとします。そうなら、この人がほめられるべきでも、あの人がとがめられるべきでもありません。43:3 また、人類が、恥ずべきことを避け、良いことを選び取る力を、自由な選びによって持っていないとします。そうなら、何がどのように行われても、人類には何の責めもありません。43:4 しかし、人類が自由な選びによって、正しく行いもし、過ちも犯すことを、わたしたちは次のように示します。わたしたちは、同じ一人の人が、正反対のことへ移っていくのを見ます。もしその人が、悪い者か立派な者かに運命で定められていたなら、決して正反対のことを受け入れはしなかったでしょう。たびたび移り変わることもなかったでしょう。それどころか、ある人々は立派で、ある人々は悪い、ということもなかったでしょう。そうでなければ、運命は善の原因でも悪の原因でもあり、自分自身に反することを行う、と明言することになるからです。あるいは、先に述べたあの説が正しいと思われることになります。徳も悪徳も何もなく、ただ思い込みで、善いとか悪いとか考えられているだけだ、という説です。この説は、真の理性が示すとおり、43:5 神を敬わないことと不義の、最たるものです。しかし、わたしたちが、破られることのない運命と言うのは、次のことです。良いことを選ぶ者にはふさわしい報いがあり、同じように、その反対を選ぶ者にもふさわしい報いがある、ということです。43:6 実際、神は人間を、ほかのもの、たとえば木や四つ足の獣のようには造られませんでした。それらは、選びによって何一つ行うことができません。実際、もしそうなら、人間は報いにも称賛にも値しなかったでしょう。自分

から善を選んだのではなく、初めから善いものとして生まれたことになるからです。また、もし悪い者であったとしても、罰を受けるのは正しくなかったでしょう。自分からそうなったのではなく、生まれたもの以外の何者にもなれなかったことになるからです。

44:1 このことを、わたしたちに教えたのは、聖なる預言の霊です。預言の霊は、最初に造られた人に神が次のように言われた、とモーセを通して告げています。『見よ、あなたの前に善と悪とがある。善を選べ』（申命記三〇・一五、一九）。44:2 また、もう一人の預言者イザヤを通して、このことについて次のように言われた、とも告げています。万物の父であり支配者である神になりかわってです。『身を洗って、清くなれ。あなたがたの魂から悪を取り除け。善を行うことをならえ。みなしごを正しく守り、寡婦を弁護せよ。さあ、われわれは互いに論じよう、と主は言われる。たとい、あなたがたの罪が緋のようであっても、わたしは羊の毛のように白くしよう。紅のようであっても、雪のように白くしよう。44:3 あなたがたが望んで、わたしに聞き従うなら、地の良き物を食べる。しかし、わたしに聞き従わないなら、つるぎがあなたがたを食い尽くす。主の口がこれを語ったからである』（イザヤ一・一六〜二〇）。44:4 先に挙げた『つるぎがあなたがたを食い尽くす』という言葉は、聞き従わない者がつるぎで殺される、という意味ではありません。そうではなく、神のつるぎとは火のことです。悪いことを行うほうを選ぶ者たちは、その火のえじきとなるのです。44:5 それゆえ、『つるぎがあなたがたを食い尽くす。主の口が語ったからである』と言うのです。もし、断ち切って、たちまち命を終わらせるつるぎのことを言っていたのなら、『食い尽くす』とは言わなかったでしょう。44:6 そのため、プラトンも『責めは選ぶ者にある。神に責めはない』と言いましたが、これを預言者モーセから受け取って言ったのです。実際、モーセは、ギリシャ人のすべての著作家よりも古いのです。また、哲学者も詩人も、44:7 魂の不死や、死後の刑罰や、天上のものの観想や、それに似た説について語りました。その語ったことはすべて、彼らが預言者たちから手がかりを得て、理解することができ、説き明かしたものです。44:8 ですから、すべての人のうちに、真理の種があるように見えます。しかし、彼らが正確に理解していなかったことは、彼ら自身が互いに食い違うことを言うときに、証明されます。そのため、これから起こることが預言されていたとわたしたちが言うのは、運命の必然によって行われるからではありません。そうではなく、神は、すべての人間がこれから行うことを前もって知っておられます。また、人間の一人ひとりに、その行いにふさわしく報いようという定めを、神は持っておられます。44:9 それで、その行いにふさわしく神から返ってくるものを、預言の霊によって前もってお告げになるのです。こうして、人類をいつも、心を留めて思い起こすように導き、神が心にかけ、人々のために配慮しておられることを示されるのです。44:10 ところが、邪悪な悪霊たちの働きによって、ヒュスタスペスやシビュラや預言者たちの書を読む者には、死罪が定められました。それらの書を読む人々を、恐れによって、良いことを知ることから遠ざけ、自分たちに仕えさせたまま、とどめておくためです。しかし、悪霊たちは、それを最後までやり遂げることはできませんでした。44:11 実際、わたしたちは、恐れることなくそれらの書を読んでいます。それどころか、見てのとおり、あなたがたにも、調べてもらうために差し出しています。それらが、すべての人に喜ばれるものと分かることを、知っているからです。たとえわずかな人しか納得させられなくても、わたしたちは最大のものを得たことになるでしょう。良い農夫のように、主人から報いを受けるからです。

訳注

1 『木から』の語は今日の聖書の本文にはない。

45〜50章　天に昇られたキリスト、ロゴスとともに生きた人々、エルサレムの荒廃、苦しみを受けるキリスト

45:1 万物の父である神は、キリストを死人の中からよみがえらせてから、天に導き上げられることになっていました。そして、そこにとどめておかれるのです。キリストに敵対する悪霊たちを、神が打ち倒されるまで、また、ある人々の数が満ちるまでです。善い者となり、徳のある者となることを、神が前もって知っておられた人々です。神がまだ世界を火で焼き尽くしておられないのも、この人々のためです。このことについて、預言者ダビデを通して語られた言葉を聞いてください。45:2 その言葉は次のとおりです。『主はわが主に言われる、「わたしがあなたのもろもろの敵をあなたの足台とするまで、わたしの右に座せよ」と。主は力あるつえを、エルサレムからあなたに遣わされる。あなたはもろもろの敵のなかで治めよ。45:3 あなたの力の日に、あなたの聖なる者たちの輝きのうちに、主権はあなたとともにある。わたしは明けの明星の前に、胎からあなたを生んだ』（詩篇一一〇・一〜三）。ですから、『力あるつえを、エルサレムからあなたに遣わされる』と言われているのは、力ある言葉を前もって告げたものです。キリストの使徒たちは、エルサレムから出て行って、至る所でこの言葉を宣べ伝えました。キリストの名を教える者にも、ただ告白するだけの者にも、死罪が定められています。それでも、わたしたちは至る所で、この言葉を喜んで受け入れ、また教えているのです。45:4 もし、あなたがたも敵としてこの言葉を読むとしても、先に述べたとおり、殺すこと以上のことは何もできません。それは、わたしたちには何の害ももたらしません。しかし、あなたがたと、不義に敵意を抱いて考えを改めないすべての人には、火による永遠の罰をもたらすのです。

46:1 理に合わない考えをする人々が、わたしたちの教えから人々をそらそうとして、こう言うかもしれません。わたしたちは、キリストが百五十年前に、クレニオのもとでお生まれになったと言っている。また、キリストが教えられたとわたしたちが言うことは、その後の時代に、ポンテオ・ピラトのもとで教えられた、と。そして、それより前に生まれた人々はみな責めを問われないことになる、と非難するかもしれません。そう言われないように、先回りして、この難問を解いておきます。46:2 キリストは神の長子であると、わたしたちは教えられました。また、キリストはロゴスであり、あらゆる民族の人々がこのロゴスにあずかったことを、先に示しました。そして、ロゴスとともに生きた人々は、たとえ無神論者とみなされたとしても、キリスト者です。たとえば、ギリシヤ人のあいだでは、ソクラテスやヘラクレイトスや、彼らに似た人々です。未開の人々のあいだでは、アブラハム、ハナニヤ、アザリヤ、ミシャエル、エリヤ、そのほか多くの人々です。その人々の行いや名を数え上げれば長くなることを知っているので、今は差し控えます。46:3 そのため、昔の人でも、ロゴスなしに生きた人々は、役に立たない者で、キリストの敵でした。また、ロゴスとともに生きる人々を殺す者でした。しかし、ロゴスとともに生きた人々も、今生きている人々も、キリスト者であり、恐れることも、心を乱されることもありません。46:4 万物の父であり支配者である神の御旨に従って、キリストはロゴスの力により、おとめによって人としてお生まれになりました。そして、イエスと名づけられ、十字架につけられて死なれ、よみがえって、天に昇られました。それがどのような理由によるのかは、これほど多くの言葉で語られてきたことから、分別のある人なら理解できるでしょう。46:5 しかし、今は、このことを論証する話をする必要はありません。それで、わたしたちは、さしあたって急を要する論証へ進みます。

47:1 さて、ユダヤ人の地が荒らされることになっていたことについても、預言の霊によって語られた言葉を聞いてください。その言葉は、起こったことに驚く民になりかわって語られています。47:2 その言葉は次のとおりです。『シオンは荒野となり、エルサレムは荒野のようになった。家はのろいとなった。われわれの聖所と、われわれの先祖がほめたたえた栄光とは、火で焼かれた。その栄えあ

るものは、ことごとく倒れた。47:3 これらのことがあっても、あなたはみずからをおさえ、黙して、われわれをいたく低くされた』（イザヤ六四・一〇〜一二）。そして、エルサレムが、前もって言われていたとおりに荒れ果てたことを、あなたがたは確信しています。また、エルサレムが荒れ果てることと、彼らのだれ一人もそこに住むのを許されなくなることも、預言されていました。預言者イザヤを通して、こう言われています。『彼らの地は荒れすたれ、彼らの前で、彼らの敵がそれを食い尽くす。彼らのうちには、そこに住む者がいなくなる』（イザヤ一・七、エレミヤ五〇・三）。47:4 また、あなたがたは、だれもそこに立ち入らないように見張っています。入って捕らえられたユダヤ人には、死罪が定められています。そのことを、あなたがたはよく知っています。

48:1 また、わたしたちのキリストが、あらゆる病気をいやし、死人をよみがえらせられることも、預言されていました。その言葉を聞いてください。それは次のとおりです。『彼が来るとき、足なえはしかのように飛び走り、口の重い者の舌ははっきりする。盲人は見え、らい病人はきよまり、死人はよみがえって歩く』（イザヤ三五・五〜六）。48:2 キリストがこれらのことを行われたことは、ポンテオ・ピラトのもとで作られた記録から、知ることができます。また、キリストは、ご自分に望みを置く人々とともに殺されることになっていました。そのことが預言の霊によってどのように前もって示されていたか、イザヤを通して語られた言葉を聞いてください。48:3 それは次のとおりです。『見よ、正しい者が滅びたのに、心にとめる人はない。正しい人々が取り去られても、悟る者はない。正しい者は不義の前から取り去られて、平安のうちにある。その墓は、ただ中から取り去られた』（イザヤ五七・一〜二）。

49:1 また、同じイザヤを通して、どのように語られているかも聞いてください。キリストを待ち望んでいなかった異邦の民は、キリストを拝むようになります。しかし、いつも待ち望んでいるユダヤ人は、来られたキリストを知らずにいるのです。その言葉は、キリストご自身になりかわって語られました。49:2 その言葉は次のとおりです。『わたしは、わたしを尋ねない者たちに現れ、わたしを求めない者たちに見いだされた。わたしの名を呼ばなかった国民に、わたしは言った、「見よ、わたしはここにいる」と。わたしは、従わず、言い逆らう民に、よからぬ道に歩む者たちに、かえって自分の罪の後に従う者たちに、手を伸べた。49:3 わたしの前で、怒りを引き起こす民である』（イザヤ六五・一〜三）。実際、ユダヤ人は、預言を持ち、いつもキリストを待ち望んでいたのに、来られたキリストを知りませんでした。それだけでなく、キリストをはずかしめました。しかし、異邦人から出た人々は、キリストについて何一つ聞いたことがありませんでした。エルサレムから出て行ったキリストの使徒たちが、キリストのことを告げ知らせ、預言を伝えるまでは、そうでした。この人々は、喜びと信仰に満たされて、偶像に別れを告げました。そして、キリストを通して、生まれることのない神に自分自身をささげたのです。49:4 また、キリストを告白する人々に対して、このようなそしりの言葉が語られることも、前もって知られていました。そして、キリストをそしり、古い慣わしを守るのが良いと言う者たちが、みじめな者であることも、前もって知られていました。そのことについて、イザヤを通して短く語られた言葉を聞いてください。49:5 それは次のとおりです。『わざわいなるかな、甘きを苦しとし、苦きを甘しとする者たちは』（イザヤ五・二〇）。

50:1 また、キリストは、わたしたちのために人となって、苦しみを受け、卑しめられることを耐え忍ばれました。そして、ふたたび栄光をもって来られます。このことについて語られた預言を聞いてください。それは次のとおりです。『彼らは彼の魂を死に渡し、彼は不法な者たちとともに数えられた。それゆえ、彼は多くの人の罪を身に受け、不法な者たちのためにあがないをする。50:2 実に、見よ、わがしもべは悟り、高められ、大いに栄光を受ける。多くの人があなたに驚くように、あなたの姿は人々から卑しめられ、あなたの栄光も人々から卑しめられる。そのように、多くの国民は驚き、王たちは口をつむぐ。彼について告げ知らされなかった者たちが見、聞かなかった者たちが悟るからである。50:3 主よ、だれがわれわれの聞いたことを信じたか。主の腕は、だれにあらわれたか。われわれは、幼な子のように、かわいた土にある根のように、彼の前で告げた。彼には姿もなく、栄光もない。われわれは彼を見たが、彼には姿もなく、美しさもなかった。かえって、その姿は卑しく、人々よりも劣っていた。50:4 彼は打たれた人で、弱さを負うことを知っていた。その顔がそむけられたので、彼は卑しめら

れ、顧みられなかった。この人はわれわれの罪を負い、われわれのために苦しむ。しかるに、われわれは、彼が労苦のうちにあり、打たれ、虐げられているのだと思った。50:5 しかし彼は、われわれの不法のために傷つけられ、われわれの罪のために弱った。平和の懲らしめは彼の上にあり、その打たれた傷によって、われわれはいやされた。われわれはみな羊のように迷い、人はおのおのその道に迷った。そして、彼をわれわれの罪に引き渡した。彼は虐げられたので、口を開かない。50:6 彼は、ほふり場に引かれて行く羊のように、また、毛を刈る者の前で黙っている小羊のように、口を開かない。彼が低くされたとき、そのさばきは取り去られた』（イザヤ五三・一二、五二・一三〜五三・八）。50:7 さて、キリストが十字架につけられた後、キリストに親しい者たちさえ、みなキリストを否んで離れ去りました。しかし後に、キリストは死人の中からよみがえって、彼らに現れ、預言を読むように教えられました。その預言の中に、これらのことがすべて起こると、前もって言われていたのです。彼らは、キリストが天に昇って行かれるのを見て、信じました。そして、そこからキリストによって彼らに送られた力を受けて、あらゆる民族の人々のもとへ行き、これらのことを教えました。こうして、彼らは使徒と呼ばれたのです。

51〜53章　敵を治めるキリスト、昇天と二度の来臨、異邦人の信仰

51:1 また、これらの苦しみを受けるかたは、語り尽くせない生まれを持ち、敵を治めて王となられます。預言の霊は、そのことをわたしたちに示すために、こう言いました。『だれがその生まれを語ることができようか。51:2 その命が地から取り去られるからである。彼は彼らの不法によって死に至る。わたしは、彼の墓の代わりに悪人たちを、彼の死の代わりに富む者たちを与える。彼は不法を行わず、その口に欺きも見いだされなかったからである。主は、彼をその打ち傷から清めようとされる。51:3 あなたがたが罪のためにささげるなら、あなたがたの魂は、長く生きる子孫を見る。また主は、彼の魂を労苦から取り去ろうとされる。彼に光を示し、悟りによって形づくり、多くの人によく仕える正しい者を、義としようとされる。そして、彼自身がわれわれの罪を負う。51:4 それゆえ、彼は多くの人を受け継ぎ、強い者たちの分捕り物を分ける。彼の魂は死に渡され、彼は不法な者たちとともに数えられたからである。彼自身が多くの人の罪を負った。そして、彼らの不法のために、彼自身が渡された』（イザヤ五三・八〜一二）。51:5 また、キリストが天に昇って行かれることになっていたことも、預言されていました。どのように預言されていたかを聞いてください。それは、こう語られました。『天の門をあげよ。開け。栄光の王が入られるためである。この栄光の王とはだれか。51:6 強い主、力ある主である』（詩篇二四・七〜八）。また、キリストは、栄光をもって天から来られることになっています。このことについても、預言者エレミヤを通して語られた言葉を聞いてください。それは次のとおりです。『見よ、人の子のような者が、天の雲の上に来る。彼の御使いたちも、彼とともにいる』（ダニエル七・一三）。

52:1 このように、すでに起こったことはすべて、起こる前に預言者たちを通して告げられていたと、わたしたちは示してきました。それなら、同じように預言され、これから起こることについても、必ず起こるものと信じなければなりません。52:2 実際、すでに起こったことは、前もって告げられていながら知られずにいて、そのとおりになりました。それと同じように、残っていることも、たとえ知られず、信じられなくても、そのとおりになるのです。実際、預言者たちは、キリストの二度の来臨を前もって告げました。一度目は、すでに起こったもので、卑しく、苦しみを受ける人としての来臨です。二度目は、告げられているとおり、キリストが栄光をもって、ご自分の御使いの軍勢を従えて、天から来られるときです。そのとき、キリストは、かつて生きたすべての人間のからだをよみがえらせられます。そして、ふさわしい者たちには朽ちないものを着せられます。しかし、不義な者たちを、永遠に感覚を持ったまま、邪悪な悪霊たちとともに、永遠の火に送られます。52:3 これらのことも起こると前もって言われていたことを、明らかにしましょう。預言者エゼキエルを通して、こう言われました。『つなぎ目はつなぎ目に、骨は骨に集められ、肉が生じる。52:4 すべてのひざは主に対してかがみ、すべての舌は主に告白する』（エゼキエル三七・七〜八、イザヤ四五・二三）。また、不義な者たちは、どのような感覚と罰のうちに置かれることになるでしょうか。そのことについて同じように語られた言葉を聞いてください。52:5 それは次のとおりです。『彼らのうじはやまず、彼らの火は消えない』（イザヤ六六・二四）。そのとき、彼らは悔い改めます。しかし、もはや何の益にもならないのです。また、ユダヤ人の民は、キリストが栄光のうちに来られるのを見るとき、何を言い、何をすることになるでしょうか。そのことは、預言者ゼカリヤを通して預言され、こう語られました。『わたしは四方の風に、散らされた子らを集めるように命じる。わたしは北に、連れて来るように命じ、南に、妨げないように命じる。52:6 そのとき、エルサレムに大きな嘆きがある。口や唇の嘆きではなく、心の嘆きである。彼らは衣服を裂かず、思いを裂く。彼らは部族ごとに嘆く。そのとき、彼らは自分たちが刺し通した者を見て、言う。「主よ、なぜ、われわれをあなたの道から迷わせたのですか。われわれの先祖が

ほめたたえた栄光は、われわれのそしりとなりました」』（ゼカリヤ二・六、一二・一〇～一二、ヨエル二・一三、イザヤ六三・一七、六四・一一）。

53:1 さて、ほかにも多くの預言を挙げることができますが、ここでやめておきます。聞いて悟る耳を持つ人々を確信させるには、これらだけでも足りると考えたからです。また、その人々は、次のことを理解できると思ったからです。ゼウスの子とみなされた者たちについては、神話が作られました。わたしたちは、その神話のように、ただ語るだけで、示すことができないのではありません。53:2 実際、十字架につけられた人間について、わたしたちはどんな理由で確信するでしょうか。この人が、生まれることのない神の長子であり、ご自身で全人類を裁かれるのだ、と。この人が人となって来られる前から、この人について証しが告げられていました。その証しを見いださず、それがそのとおりに起こるのも見ていなかったなら、確信するはずがありません。すなわち、ユダヤ人の地は荒らされました。また、あらゆる民族の人々が、キリストの使徒たちの教えによって確信し、古い慣わしを捨てました。その慣わしの中で、彼らは迷いながら暮らしていたのです。その人々を、わたしたちは、ほかならぬ自分たちのうちに見ています。そして、異邦人から出たキリスト者が、ユダヤ人とサマリヤ人から出たキリスト者よりも多く、より真実であることを知っています。53:3 実際、ほかのすべての人間の民族は、預言の霊によって異邦人と呼ばれています。しかし、ユダヤ人とサマリヤ人の種族は、イスラエル、またヤコブの家と呼ばれています。そして、異邦人から出て信じる人々が、ユダヤ人とサマリヤ人から出た人々よりも多くなることも、預言されていました。その預言の言葉を伝えましょう。53:4 それは、こう語られました。『喜べ、子を産まない不妊の女よ。産みの苦しみをしない女よ、声を放って叫べ。荒れ果てた女の子らは、夫のある女の子らよりも多いからである』（イザヤ五四・一）。53:5 実際、異邦人はみな、まことの神を持たず、荒れ果てていました。手で造ったものを祭っていたのです。しかし、ユダヤ人とサマリヤ人は、神からの言葉を、預言者たちを通して伝えられていました。そして、いつもキリストを待ち望んでいたのに、来られたキリストを知りませんでした。ただ、わずかな人々は別です。その人々が救われることを、聖なる預言の霊が、イザヤを通して前もって告げていました。53:6 預言の霊は、その人々になりかわって、こう言いました。『もし主がわれわれに子孫を残されなかったなら、われわれはソドムとゴモラのようになったであろう』（イザヤ一・九）。実際、ソドムとゴモラは、神を敬わない人々の町々でした。53:7 そのような町があったことを、モーセが記しています。神は、これらの町を火と硫黄で焼いて、滅ぼされました。その中にいた者は、だれも救われませんでした。ただ、よその民族の者で、生まれはカルデヤ人の、ロトという人だけは別でした。この人とともに、娘たちも救い出されました。53:8 その地方は全体が、荒れ果て、焼かれていて、今も実を結ばないままです。見たい人は、それを見ることができます。また、異邦人から出た人々が、より真実で、より信仰深いことも、前もって知られていました。預言者イザヤを通して語られた言葉を伝えましょう。53:9 イザヤはこう言いました。『イスラエルは心に割礼を受けておらず、異邦人は包皮に割礼を受けていない』（エレミヤ九・二六）。とにかく、目に見えるこれほど多くのことは、確信と信仰とを、理性をもって抱かせることができます。真実を喜んで受け入れ、名声を愛さず、激情に支配されない人々にです。

54〜57章　悪霊たちによる預言のまね、十字架の形、シモンの像、迫害

54:1 しかし、詩人たちの作った神話を伝える者たちは、それを学ぶ若者たちに、論証を一つも示しません。わたしたちは、それらの神話が、人類を欺き、惑わすために、邪悪な悪霊たちの働きによって語られたことを示します。54:2 実際、悪霊たちは、預言者たちを通して告げられていることを聞きました。キリストが来られること、そして、人間のうちの神を敬わない者たちが火によって罰せられることです。そこで、ゼウスに多くの子が生まれたと言われるように仕向けました。そうすれば、キリストについてのことを、人々に怪しげな作り話とみなさせることができると考えたのです。詩人たちの語ったことと同じようなものだ、と。54:3 そして、こうしたことは、ギリシャ人のあいだでも、ほかのすべての民族のあいだでも語られました。それは、キリストがそこでいっそう多く信じられるようになると預言者たちが前もって告げるのを、悪霊たちが聞いていた所です。しかし、悪霊たちは、預言者たちを通して語られた言葉を聞いても、正確には理解しませんでした。そうではなく、迷いながら、わたしたちのキリストについてのことをまねたのです。このことを、はっきりと示しましょう。54:4 さて、先に述べたように、預言者モーセは、すべての著作家よりも古い人でした。そして、先に示したように、モーセを通して、こう預言されました。『ユダから治める者は絶えず、その腿から君も絶えない。それが備えられているかたが来るまで。彼はもろもろの民の待ち望む者となる。彼はそのろばの子をぶどうの木につなぎ、その衣をぶどうの血で洗う』（創世記四九・一〇〜一一）。54:5 そこで、悪霊たちは、この預言の言葉を聞くと、ディオニュソスがゼウスの子として生まれたと言いました。そして、ディオニュソスがぶどうの木を見いだした者だと伝えました。また、その秘儀の中で、ろば[1]を描いています。さらに、ディオニュソスは引き裂かれた後、天に昇った、と教えました。54:6 また、モーセの預言でははっきりと示されていませんでした。来られるかたが神の子であるのかどうか。また、『子』に乗って地上にとどまられるのか、それとも天に昇られるのか。さらに、『子』という語は、ろばの子をも、馬の子をも指すことができました。前もって告げられているかたは、ろばの子を引いて、それをご自分の来臨のしるしとされるのか。それとも、馬の子を引いてそうされるのか。悪霊たちは、それを知りませんでした。また、先に述べたように、神の子なのか、人間の子なのかも知りませんでした。そこで、ベレロフォンもまた、人間から生まれた人間でありながら、ペガソスという馬に乗って天に昇った、と言ったのです。54:7 また、悪霊たちは、もう一人の預言者イザヤを通して言われたことを聞きました。このかたがおとめによってお生まれになり、ご自分の力で天に昇られる、ということです。そこで、ペルセウスのことが語られるように仕向けました。また、悪霊たちは、『巨人のように強く、道を走る』（詩篇一九・五）と言われているのを知りました。先に書き記した預言の中で、前もって言われたとおりです。すると、ヘラクレスは強く、全地を巡り歩いた、と言いました。54:8 また、悪霊たちは、このかたがあらゆる病気をいやし、死人をよみがえらせられると預言されていたことを知りました。すると、今度はアスクレピオスを持ち出しました。

55:1 しかし、悪霊たちは、ゼウスの子と言われる者たちのだれについても、十字架につけられることは、どこにもまねませんでした。実際、悪霊たちには、それが理解できなかったのです。先に示したように、そのことについて語られた言葉は、どれもしるしとして語られていたからです。55:2 十字架は、預言者が前もって言ったとおり、キリストの力と支配の最も大きなしるしです。そのことは、目に見えるものからも示されます。実際、世界にあるすべてのものをよく考えてみてください。この形なしに営まれるものや、互いに交わりを持つことのできるものがあるかどうかを。55:3 実際、海は、もし帆と呼ばれるこの勝利のしるしが船の上で無事に保たれていなければ、切って進むことができません。地は、これなしには耕されません。土を掘る者も、手仕事をする職人も、同じように、この形を持つ道具によらなければ、仕事をしません。55:4 また、人間の姿が、理

性のない動物と違うのは、ただ次の点です。まっすぐに立ち、手を広げられること。そして、顔に、額から伸びる、鼻と呼ばれるものを持っていることです。これによって、生き物は息をします。そして、この姿は、十字架の形にほかなりません。55:5 また、預言者を通して、こう言われました。『われわれの顔の前の息は、主キリストである』（哀歌四・二〇）。また、あなたがたのところにあるしるしも、この形の力を明らかにしています。軍旗[2]と勝利のしるしのことです。あなたがたは、これらを掲げて、至る所を行進します。そして、これらに、支配と力の印を表しています。それと知らずに、そうしているのですが。55:6 また、あなたがたのところで死んでいく皇帝たちの肖像を、あなたがたは、この形の上に据えます。そして、銘によって、彼らを神々と呼びます。ですから、わたしたちは、言葉によっても、目に見える形によっても、力のかぎり、あなたがたに勧めました。もう、責めを問われることはないと知っています。たとえ、あなたがたが信じないとしてもです。実際、わたしたちのなすべきことは、なされ、果たされました。

56:1 邪悪な悪霊たちは、キリストが現れられる前に、ゼウスの子と言われる者たちが生まれたと言うだけでは、満足しませんでした。キリストが現れて、人々のあいだに来られると、悪霊たちは知りました。それが預言者たちを通して、どのように前もって告げられていたかをです。また、キリストがあらゆる民族のうちで信じられ、待ち望まれていることを知りました。そこで、先に示したように、ふたたび、ほかの者たちを押し立てました。サマリヤ出身のシモンとメナンドロスです。この者たちは、魔術の力あるわざを行って、多くの人を欺きました。今も、人々を欺かれたままにしています。56:2 実際、先に述べたように、シモンは、クラウデオ帝のとき、あなたがたのところ、王都ローマに来ました。そして、聖なる元老院とローマの国民を、ひどく驚かせました。そのため、神とみなされ、あなたがたのところで誉れを受けているほかの神々と同じように、像を立てられて誉れを受けたのです。56:3 ですから、わたしたちは、聖なる元老院とあなたがたの国民を、この願いをともに審査する者として加えてくださるよう、求めます。もしだれかが、あの者から出た教えにとらわれているなら、真実を学んで、迷いから逃れることができるためです。また、望むなら、あの像を取り壊してください。

57:1 実際、邪悪な悪霊たちは、神を敬わない者たちを罰する火で世界が焼き尽くされることはない、と信じ込ませることはできません。キリストが来られたときに、知られずにおられるようにすることもできなかったのと同じです。悪霊たちにできるのは、ただ次のことだけです。理に合わない生き方をし、悪い慣わしの中で激情のままに育てられ、名声を愛する者たちがいます。その者たちに、わたしたちを殺させ、憎ませることです。わたしたちは、その者たちを憎まないばかりか、示されているとおり、あわれんで、考えを改めるよう説き伏せたいと願っています。57:2 実際、わたしたちは死を恐れません。だれもが必ず死ぬことは、認められているからです。また、この世の営みには、何も新しいことはなく、同じことがあるだけだからです。こうしたことに一年でもあずかった人が、もしそれに飽きることがないとします。それなら、わたしたちの教えに心を向けなければなりません。いつまでも苦しみを受けず、何にも欠けることのない者となるためです。57:3 また、もし彼らが、死んだ後に何かがあるとは信じず、死ぬ者は感覚のない状態に入る、と明言するとします。それなら、彼らは、この世の苦しみと欠乏からわたしたちを救い出して、恩恵を施していることになります。しかし、自分自身が、悪く、人を憎み、名声を愛する者であることを示しています。実際、彼らは、わたしたちを解き放つつもりで殺すのではなく、いのちと楽しみを奪うつもりで殺しているのです。

訳注

1 写本では『ろば』ではなく『ぶどう酒』とある。

2 この語は、写本の欠けた箇所を補ったもの。

58〜61章　マルキオン、プラトンとモーセ、洗礼

58:1 また、先に述べたように、邪悪な悪霊たちは、ポントのマルキオンを押し立てました。この者は今もなお、否むよう教えています。天と地のすべてのものを造られた神と、預言者たちを通して前もって告げられた、その子キリストとをです。そして、万物の造り主である神とは別の、ある神と、同じように別の子とを宣べ伝えています。多くの人が、この者だけが真理を知っているかのように思って、この者を信じ込み、わたしたちをあざ笑っています。自分の言うことについて、論証を一つも持っていません。そうではなく、狼にさらわれた小羊のように、理に合わずに、無神論の説と悪霊たちのえじきになっているのです。58:2 実際、悪霊と呼ばれる者たちは、ほかでもなく、このことに努めています。人々を、造り主である神と、その最初に生まれた子キリストから引き離すことです。地から身を上げることのできない者たちがいます。悪霊たちは、その者たちを地上のものや手で造られたものに釘づけにしてきました。今も釘づけにしています。しかし、神的なものの観想へと向かう者たちもいます。その者たちが、もし健全な考えと、清く激情のない生活とを持っていなければ、悪霊たちは足をすくいます。そして、神を敬わないことへと投げ込むのです。

59:1 また、次のことを学ぶために、モーセを通して言葉どおりに語られたことを聞いてください。プラトンが、神は形のない物質を変えて世界を造られた、と言ったのも、わたしたちの師たちから受け取った、ということです。わたしたちの師とは、預言者たちを通して語られるロゴスのことです。59:2 モーセは、先に名を挙げた最初の預言者で、ギリシャ人の著作家たちよりも古い人です。預言の霊は、このモーセを通して、神が初めにどのように、また何から世界を造られたかを示して、こう言いました。『はじめに神は天と地とを創造された。59:3 地は見えず、整えられていなかった。やみが淵の上にあり、神の霊が水の上を漂っていた。神は「光あれ」と言われた。59:4 すると、そのようになった』（創世記一・一〜三）。そのため、プラトンも、同じことを言う者たちも、わたしたちも、次のことを学んだのです。神のロゴスによって、もとにあるもの、つまりモーセを通して先に示されたものから、世界全体が生じたということです。あなたがたも、そう確信することができます。59:5 また、詩人たちのもとでエレボスと呼ばれるものも、先にモーセによって語られていたことを、わたしたちは知っています。

60:1 また、プラトンの『ティマイオス』には、自然について論じる中で、神の子について語られていることがあります。『彼を万物の中にΧの字の形に置いた』と言うときのことです。プラトンはこれも、同じようにモーセから受け取って言ったのです。60:2 実際、モーセの書物には、こう書き記されています。イスラエルの人々がエジプトから出て、荒野にいたときのことです。毒を持つ獣たち、まむしや毒蛇やあらゆる種類の蛇が彼らを襲い、民を殺していました。そこで、神から来た霊感と働きによって、モーセは青銅を取り、十字架の型を作りました。そして、それを聖なる幕屋の上に立て、民に言いました。『もしあなたがたがこの型を見つめて信じるなら、それによって救われる』（民数記二一・八〜九）。60:3 そして、そうなると、蛇は死んだ、とモーセは書き記しました。また、民はこのようにして死を逃れた、と伝えました。プラトンはこれを読みましたが、正確には理解しませんでした。それを十字架の型ではなく、Χの字の形だと考えたのです。そして、第一の神に次ぐ力が、万物の中にΧの字の形に置かれた、と言いました。60:4 また、プラトンが『第二』と言ったのも、同じようにモーセから受け取ったものです。先に述べたように、神の霊が水の上を漂っていた、とモーセが言っているのを読んだからです。実際、プラトンは、第二の位を、神から出たロゴスに与えています。このロゴスが万物の中にΧの字の形に置かれた、と言ったのです。そして、第三の位を、水の上を漂っていると言われた霊に与えて、『第三のものは、第三の者のまわりにある』と言っています。60:5 また、預言の霊が、モーセを通して、世界が火で焼き尽くされることをどのよう

に前もって示したかを、聞いてください。預言の霊は、こう言いました。『永遠に生きる火が下り、下の淵まで食い尽くす』（申命記三二・二二）。ですから、わたしたちがほかの人々と同じことを考えているのではありません。そうではなく、すべての人が、わたしたちのものをまねて語っているのです。60:6 ですから、わたしたちのもとでは、これらのことを聞き、学ぶことができます。教える者たちは、文字の形さえ知りません。話す言葉の上では無学で未開ですが、心は知恵があり、信仰のある人々です。中には、目の不自由な者や、視力を失った者もいます。そのため、これらのことが人間の知恵によって生じたのではなく、神の力によって語られている、とわかるのです。

61:1 また、わたしたちがキリストによって新しくされて、どのようにして自分を神にささげたのかも、説き明かしましょう。これを省いて、説き明かしの中で何か不正直なことをしていると思われないためです。わたしたちが教え、語っていることが真実であると確信し、信じる人々がいます。その人々が、そのように生きることができると約束するとします。その人々は、断食しながら祈り、先に犯した罪の赦しを神に願い求めるよう、教えられます。わたしたちも、その人々とともに祈り、ともに断食します。61:2 それから、その人々は、わたしたちによって、水のある所に連れて行かれます。そして、わたしたち自身が新たに生まれたのと同じしかたで、新たに生まれるのです。実際、そのとき、その人々は水の中で洗いを受けます。万物の父であり支配者である神と、わたしたちの救い主イエス・キリストと、聖霊の名によってです。61:3 実際、キリストも言われました。『もしあなたがたが新たに生まれなければ、天国にはいることはできない』（ヨハネ三・三、五、マタイ一八・三）。また、一度生まれた者が、産んだ母の胎にはいることができないのは、だれにも明らかです。61:4 また、先に書き記したように、預言者イザヤを通しても語られています。罪を犯して悔い改める者たちが、どのようにして罪から逃れるかです。こう言われました。『身を洗って、清くなれ。あなたがたの魂から悪を取り除け。善を行うことをならえ。みなしごを正しく守り、寡婦を弁護せよ。さあ、われわれは互いに論じよう、と主は言われる。たとい、あなたがたの罪が緋のようであっても、わたしは羊の毛のように白くしよう。紅のようであっても、雪のように白くしよう。61:5 しかし、わたしに聞き従わないなら、つるぎがあなたがたを食い尽くす。主の口がこれを語ったからである』（イザヤ一・一六〜一八、二〇）。また、このことの理由も、わたしたちは使徒たちから次のように学びました。わたしたちは、最初の誕生のとき、それを知らないまま、必然によって生まれました。両親の互いの交わりによる、湿った種からです。そして、悪い慣わしとよこしまな生き方の中で育ちました。そこで、新たに生まれることを選び、犯した罪を悔い改めた者がいれば、その人の上に、水の中で、神の名が唱えられます。万物の父であり支配者である神の名です。わたしたちが、必然と無知の子のままでいることなく、選びと知識の子となり、また、先に犯した罪の赦しを得るためです。洗いを受ける者を洗いへと導く者は、ただこの呼び方だけを唱えます。61:6 実際、言い表せない神の名を言うことのできる者は、だれもいません。もしだれかが、あえて名があると言うなら、その人は救いようのない狂気にとりつかれています。また、この洗いは「照らし」と呼ばれます。これを学ぶ者たちが、心を照らされるからです。61:7 また、照らされる者は、イエス・キリストの名によっても洗われます。ポンテオ・ピラトのもとで十字架につけられたかたです。また、聖霊の名によっても洗われます。この霊は、預言者たちを通して、イエスについてのことをすべて前もって告げました。

62〜65章　悪霊のまねごと、しばの中の御使い、洗礼の後の集まり

62:1 また、悪霊たちは、預言者を通して告げられたこの洗いのことを聞きました。そして、自分たちの神殿に入る者たちに働きかけて、その者たちにも身に水を振りかけさせました。悪霊たちに近づいて、注ぎの供え物やいけにえの煙をささげようとする者たちです。さらに、悪霊たちが祭られている神殿に行く前に、すっかり身を洗うようにも働きかけています。62:2 実際、神殿に入って悪霊たちを礼拝する者たちは、祭司たちから、くつを脱ぐよう命じられます。これも、悪霊たちが、先に名を挙げた預言者モーセの身に起こったことから学んで、まねたのです。62:3 実際、モーセがエジプトに下って、そこにいるイスラエルの民を導き出すよう命じられたときのことです。モーセは、アラビヤの地で、母方のおじの羊を飼っていました。すると、わたしたちのキリストが、火の姿で、しばの中からモーセに語りかけられ、こう言われました。『くつを脱ぎ、近づいて聞け』（出エジプト三・五）。62:4 モーセはくつを脱いで近づき、エジプトに下って、そこにいるイスラエルの民を導き出せ、と聞きました。そして、火の姿でモーセに語られたキリストから、強い力を受けました。それから、エジプトに下り、大きな不思議なわざを行って、民を導き出しました。もしそれを学びたいなら、モーセの書物から正確に学ぶことになるでしょう。

63:1 ところが、ユダヤ人はみな、今もなお、名づけようのない神がモーセに語られたのだ、と教えています。ですから、預言の霊は、先に名を挙げた預言者イザヤを通して、彼らの誤りを証明しました。先に書き記したように、こう言ったのです。『牛はその飼主を知り、ろばはその主人のまぐさおけを知る。しかしイスラエルはわたしを知らず、民はわたしを悟らない』（イザヤ一・三）。63:2 また、ユダヤ人は、父とは何か、子とは何かを知りませんでした。そこで、イエス・キリストも、同じように彼らの誤りを証明して、ご自身でこう言われました。『子のほかに父を知った者はなく、父と、子があらわす者とのほかに、子を知った者もない』（マタイ一一・二七）。63:3 先に述べたように、神のロゴスが、神の子です。また、このかたは、御使いとも使者とも呼ばれます。実際、このかたご自身が、知られるべきことをお告げになり、告げられることを示すために遣わされるのです。わたしたちの主ご自身も、こう言われたとおりです。『わたしに聞き従う者は、わたしをおつかわしになったかたに聞き従うのである』（ルカ一〇・一六、マタイ一〇・四〇）。63:4 このことは、モーセの書物からも明らかになるでしょう。その中には、こう言われています。『そして、神の御使いが、しばの中から、火の炎のうちにモーセに語って言った。「わたしは有る者、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、あなたの先祖の神である。63:5 エジプトに下って行き、わたしの民を導き出せ」』（出エジプト三・二、一四、六、一五、一〇）。その先のことは、学びたければ、モーセの書物から学ぶことができます。実際、ここにすべてを書き記すことはできません。そうではなく、これらの言葉は、次のことの論証のために挙げたのです。イエス・キリストは、神の子であり、使者です。このかたは、以前はロゴスであられ、あるときは火の姿で、あるときは体のない姿で[1]、お現れになりました。しかし今は、神のみこころによって、人類のために人となられました。そして、悪霊たちが愚かなユダヤ人を動かして加えさせた仕打ちを、すべて苦しみ忍ばれたのです。63:6 このユダヤ人たちは、モーセの書物の中に、はっきりとこう語られているのを持っています。『そして、神の御使いが、しばの中で、燃える火のうちにモーセに語って言った。「わたしは有る者、アブラハムの神、イサクの神、またヤコブの神である」』（出エジプト三・二、一四、六）。それなのに、このことを言われたかたを、万物の父であり造り主である、と言うのです。63:7 ですから、預言の霊も、彼らの誤りを証明して、こう言いました。『しかしイスラエルはわたしを知らず、民はわたしを悟らない』（イザヤ一・三）。また、イエスも、先に示したように、彼らのあいだにおられたとき、こう言われました。『子のほかに父を知った者はなく、父と、子があらわす者とのほかに、子を知った者もない』（マタイ一一・二

七)。63:8 ユダヤ人は、いつも、万物の父がモーセに語られたと考えてきました。しかし、モーセに語られたのは神の子です。このかたは、御使いとも使者とも呼ばれています。ですから、彼らが父も子も知らなかったことは、預言の霊によっても、キリストご自身によっても、正しく証明されているのです。63:9 実際、子を父だと言い張る者たちは、父を知らず、万物の父に子がいることも知らない、と証明されます。このかたは、神のロゴスであり長子であられるので、神でもあられます。63:10 そして、このかたは、以前は、火の形と体のない姿とによって、モーセやほかの預言者たちにお現れになりました。しかし今は、あなたがたの支配の時代に、先に述べたように、父のみこころに従って、おとめによって人となられました。ご自分を信じる人々の救いのためです。そして、さげすまれることも、苦しみをお受けになることも忍ばれました。死なれ、よみがえって、死に打ち勝たれるためです。63:11 また、しばの中からモーセに言われた言葉があります。『わたしは有る者、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、またあなたの先祖の神である』(出エジプト三・一四、六、一五)。これは、あの人々が、死んでもなおとどまり、キリストご自身のものである人々だ、ということを示しています。実際、神を探し求めることに打ち込んだのは、すべての人のうちで、あの人々が最初でした。アブラハムはイサクの父、イサクはヤコブの父でした。モーセも書き記したとおりです。

64:1 また、悪霊たちは、水の泉のほとりに、コレと呼ばれる者の像を立てさせました。そして、これをゼウスの娘だと言いました。モーセを通して語られたことを、まねたのです。このことも、先に挙げた言葉から理解できるでしょう。64:2 実際、先に書き記したように、モーセはこう言いました。『はじめに神は天と地とを創造された。地は見えず、整えられていなかった。神の霊が水の上を漂っていた』(創世記一・一〜二)。64:3 ですから、悪霊たちは、水の上を漂っていると言われた神の霊をまねて、コレをゼウスの娘だと言ったのです。また、同じように悪だくみをして、アテナもゼウスの娘だと言いました。交わりによってではありません。そうではなく、神は考えをめぐらして、ロゴスによって世界を造られました。悪霊たちはそれを知ったので、アテナを、いわばその最初の考えだと言ったのです。考えの像として女の姿を持ち出すのは、まったくばかげたことだ、とわたしたちは考えます。ゼウスの子と言われるほかの者たちも、同じように、その行いによって罪が証明されています。

65:1 わたしたちは、確信して同意した人を、このように洗ったあと、兄弟と呼ばれる人々が集まっている所に連れて行きます。自分たちのため、照らされた人のため、またほかのあらゆる所のすべての人のために、熱心に、ともに祈りをささげるためです。わたしたちは真理を学びました。そのわたしたちが、行いによっても、良い市民、また命じられたことを守る者と認められるにふさわしいとされるように祈ります。永遠の救いによって救われるためです。65:2 祈りを終えると、わたしたちは互いに接吻をもってあいさつします。それから、兄弟たちの指導者のもとに、パンと、水と水で割ったぶどう酒との杯が運ばれます。指導者はそれを受け取ると、子と聖霊の名によって、万物の父に賛美と栄光をささげます。そして、父によってこれらのものにあずかるにふさわしいとされたことについて、長いあいだ感謝をささげます。指導者が祈りと感謝を終えると、そこにいる民はみな、「アーメン」と言って唱和します。65:3 「アーメン」とは、ヘブル語で「そうなりますように」という意味です。指導者が感謝をささげ、民がみな唱和します。すると、わたしたちのもとで執事と呼ばれている者たちが、そこにいる一人一人に分け与えます。感謝がささげられたパンとぶどう酒と水とに、あずからせるのです。また、そこにいない者たちのもとにも運びます。

訳注

1 写本では『体のない者たち(天使)の姿で』とある。

66〜68章　聖餐、日曜日の集まり、ハドリアヌスの手紙

66:1 この食物は、わたしたちのあいだで「聖餐」と呼ばれています。これにあずかることは、ほかのだれにも許されていません。許されているのは、わたしたちが教えていることを真実だと信じる人だけです。その人は、罪の赦しと新たな誕生のための洗いを受けて、キリストが伝えられたとおりに生きている人です。66:2 実際、わたしたちは、これらを普通のパンや普通の飲み物として受けるのではありません。そうではなく、わたしたちの救い主イエス・キリストは、神のロゴスによって肉となられました。そして、わたしたちの救いのために、肉も血も持たれました。それと同じように、わたしたちは、こう教えられたのです。キリストから出た祈りの言葉によって感謝がささげられた食物も、肉となられたあのイエスの肉であり血である、ということです。わたしたちの血と肉は、この食物から、変化によって養われます。66:3 実際、使徒たちは、自分たちの書いた回想録、つまり「福音書」と呼ばれるものの中で、こう命じられたと伝えています。イエスはパンを取り、感謝をささげて言われました。『わたしを記念するため、このように行いなさい。これはわたしのからだである』（ルカ二二・一九）。また、杯も同じように取り、感謝をささげて言われました。『これはわたしの血である』（マタイ二六・二八、マルコ一四・二四）。そして、使徒たちだけにお与えになりました。66:4 悪い悪霊たちは、これをまねて、ミトラスの秘儀でも同じことが行われるように伝えました。実際、入信する者の儀式では、パンと水の杯が、ある唱え言葉とともに置かれます。あなたがたはそれを知っているか、そうでなくても学ぶことができます。

67:1 わたしたちは、それから後、いつも互いにこれらのことを思い起こさせています。また、わたしたちのうち、持っている者たちは、乏しいすべての人を助けます。そして、わたしたちは、いつも互いにともにいます。また、食べるすべてのものについて、万物の造り主をほめたたえます。その子イエス・キリストを通し、また聖霊を通してです。67:2 そして、日曜日と呼ばれる日には、町や村に住むすべての者が一か所に集まります。そして、時の許すかぎり、使徒たちの回想録か、預言者たちの書物が読まれます。67:3 朗読する者が読み終えると、指導者が言葉によって、これらの良いことに倣うよう訓戒し、勧めます。それから、わたしたちはみな、いっしょに立ち上がって祈りをささげます。そして、先に述べたように、わたしたちが祈りを終えると、パンとぶどう酒と水が運ばれます。指導者は、同じように、力のかぎり祈りと感謝をささげます。民は「アーメン」と言って唱和します。そして、感謝がささげられたものが一人一人に分けられ、みながそれにあずかります。また、そこにいない者たちには、執事たちを通して届けられます。67:4 富んでいる者で、そう望む者は、それぞれ自分の選びに従って、望むものを与えます。集められたものは、指導者のもとに置かれます。指導者は、それによって、みなしごとやもめを助けます。また、病気やほかの理由で乏しい者たち、獄にいる者たち、よそから来て滞在している旅人たちを助けます。一言で言えば、困っているすべての人の世話をするのです。67:5 わたしたちがみな日曜日にいっしょに集まるのは、それが最初の日だからです。この日に、神はやみと物質を変えて、世界を造られました。また、わたしたちの救い主イエス・キリストは、同じ日に死人の中からよみがえられたからです。実際、人々は、土曜日の前の日にこのかたを十字架につけました。そして、土曜日の次の日、つまり日曜日に、このかたは使徒たちと弟子たちにお現れになって、これらのことを教えられました。わたしたちは、それを、あなたがたにも調べてもらおうと差し出したのです。

68:1 そこで、もしこれらのことが、理にかない、真理に沿っているとあなたがたに思えるなら、これらを重んじてください。しかし、たわごとだと思えるなら、たわいもないこととして軽んじてください。そして、何の不義も行っていない者たちに、敵に対するように死刑を定めないでください。68:2 実際、わたしたちは、あなたがたに前もって言っておきます。もし不義にとどまり続けるなら、

あなたがたは、来るべき神の裁きを逃れられないでしょう。そして、わたしたちは叫ぶでしょう。「神のみこころにかなうことが、なりますように」。また、わたしたちは、わたしたちが願ったとおりに裁判を行うよう命じることを、あなたがたに要求することもできます。あなたがたの父である、最も偉大で最も名高いカイザル・ハドリアヌスの手紙に基づいてです。しかし、これを願ったのは、ハドリアヌスがそう定めたからというよりも、正しいことを願っていると知っているからです。そのために、この呼びかけと説き明かしをしてきたのです。68:3 また、ハドリアヌスの手紙の写しも、下に添えました。この点でも、わたしたちが真実を語っていることを、あなたがたが知るためです。その写しは次のとおりです[1]。ミヌキウス・フンダヌスへ。わたしは、最も高名なセレニウス・グラニアヌスがわたしにあてて書いた手紙を受け取った。あなたはその後任である。68:4 そこで、わたしは、この件を調べないまま放っておくべきではないと考える。人々が騒がされることのないように、また、中傷する者たちに悪事の手だてが与えられることのないようにするためである。だから、属州の人々が、この請願を支えて、キリスト者に対してはっきりと申し立てることができるとする。法廷で答弁することさえできるとする。それなら、この手段だけを取らせよ。請願や、ただの叫び声によってはならない。68:5 実際、だれかが訴えようとするなら、あなたがこれを審理するほうが、はるかにふさわしい。そこで、だれかが訴え出て、彼らが法に反して何かを行っていることを示すなら、罪の重さに応じて裁きを定めよ。ただし、ヘラクレスにかけて言う。もしだれかが中傷のためにこれを持ち出すなら、そのひどさについて裁きを下し、どう罰するかに心を配れ。

訳注

1 原文はラテン語で、ここにあるのは四世紀の歴史家によるギリシア語訳。

第一弁明

2026年11月23日版
著者　ユスティノス
制作　藤遥
発行　christian-classics-jp
公開　https://christian-classics-jp.github.io/site/justin-first-apology/
原稿　https://github.com/christian-classics-jp/site/tree/master/books/justin-first-apology
全文を、ギリシア語原文（Ἀπολογία πρώτη）からAIを使って翻訳しました。
訳文はCC BY-SA 4.0で公開しています。引用した聖書の本文は含みません。